

高津区区民生活に関わる ニーズ調査

報告書



平成19年1月

高 津 区

はじめに

少子高齢化の急速な進展や低経済成長への移行など、大きな社会の転換期を迎え、市民のライフスタイルが多様化しています。それに伴い、行政には、地域の視点や様々な価値観に基づく公共サービスの提供が求められており、特に区役所には、日常的なまちづくりの課題を的確に把握し、地域で解決する役割が求められています。

高津区においても、マンション建設に伴う人口急増、放置自転車、防犯、子育て支援など様々な課題がありますが、これらの課題を解決するためには、区民の視点・感覚を踏まえて区政を進めていくことが大切と考えています。

そこで、区政の主役である区民一人ひとりが個人や地域で抱える課題について、どのような意識や意見を持っているかを把握し、地域の声を最大限に反映できる施策のあり方や解決手法を検討し選択する際の資料とするため、「高津区区民生活に関わるニーズ調査」を実施しました。

今回の調査では、「区役所業務に対する要望と評価」、「まちの課題・問題点」、「区事業の認知度と評価」などを調査項目として取り上げています。

これらの調査結果を区が行う施策・事業に反映し、区民本位のよりよい区政運営に活かしていきたいと考えております。

目 次

調査概要	3
調査回答者の属性	7
調査結果	
1. 区の施策について	13
(1) 区役所業務の評価	13
(2) 区役所業務への要望	16
(3) 放置自転車対策	19
(4) 街頭犯罪防止対策	22
(5) 地震や風水害対策	25
(6) 健康推進	28
(7) 高齢者支援	31
(8) 子育て支援	34
(9) 地域住民のつながりを深める手法	36
(10) 市民活動支援	39
(11) 区の情報提供	42
(12) 区民の要望収集	44
(13) 花と緑のまちづくり推進	46
(14) 区の文化の振興	49
(15) 「音楽のまち」推進	52
(16) 区のイメージアップ	55
(17) 区役所の窓口サービス向上	57
(18) まちの課題・問題点	60

2 . 区の事業について	63
(1) 事業の評価	63
(2) 各事業への認知・参加度	64
(3) 各事業の評価	65
溝口駅周辺放置自転車対策事業	65
高津安心・安全まちづくり支援事業	66
高津区健康福祉祭り	67
高津禁煙サポート事業	68
高津わくわくフェスティバル	69
体育・スポーツイベント	70
高津区子どもフェア	71
橘ふるさと祭り 子どもイベント	72
高津区まちづくり推進事業	73
市民協働のまちづくりに向けた情報発信事業	74
花と緑のたかつ推進事業	75
高津区「音楽のまち」推進事業	76
高津区文化振興事業	77
高津区企業マップづくり事業	78
使用した調査票	81

. 調 査 概 要

調査概要

1. 調査の目的

高津区が執行する事業について、区民ニーズを的確に把握し、効率的、効果的に執行するため、「区民がどのような施策・事業を執行してほしいと思っているのか」、「高津区で実施している施策・事業をどのように評価しているのか」について、アンケート調査を実施する。

2. 調査の方法

- (1) 調査の地域 …… 川崎市高津区全域
- (2) 調査の対象者 …… 川崎市高津区在住の満20歳以上の男女個人（外国人含む）
- (3) 標本の抽出 …… 平成18年4月現在の住民基本台帳及び外国人登録原票に基づく層化二段無作為抽出
- (4) 標本数 …… 577 サンプル
- (5) 調査方法 …… 配布留置法
- (6) 調査期間 …… 平成18年5月31日（水）～6月21日（水）
- (7) 調査委託機関 …… 株式会社 総合企画

3. 主要な調査項目

- (1) 区役所業務に対する評価と要望
- (2) 区の施策・事業についての手法
- (3) まちの課題・問題点
- (4) 区事業の認知度と評価

4. 標本誤差

この調査の標本誤差（サンプル誤差）は、概ね下表のとおりである。標本誤差は次の式により得られる。標本誤差の幅は 比率算出の基数（n）及び 回答の比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差
n=比率算出の基数（サンプル数）
P=回答の比率

回答の比率 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
577	± 3.5	± 4.7	± 5.4	± 5.8	± 5.9
500	± 3.8	± 5.1	± 5.8	± 6.2	± 6.3
400	± 4.2	± 5.7	± 6.5	± 6.9	± 7.1
300	± 4.9	± 6.5	± 7.5	± 8.0	± 8.2
200	± 6.0	± 8.0	± 9.2	± 9.8	± 10.0
100	± 8.5	± 11.3	± 13.0	± 13.9	± 14.1

(注) 1. 上表は $\frac{N-n}{N-1}$ 1として算出した。

2. この表は、ある設問の回答者数が577人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±5.8%以内ということを表す。

5. 回収状況

町名	20歳以上人口（構成比）	標本数	有効回収数（構成比）	有効回収率	
高津地区	宇奈根	642 (0.4%)	4	4 (0.7%)	100.0%
	梶ヶ谷	7,894 (4.8%)	48	18 (3.1%)	37.5%
	上作延	8,322 (5.1%)	50	33 (5.7%)	66.0%
	北見方	6,339 (3.9%)	38	28 (4.9%)	73.7%
	久地	7,799 (4.7%)	48	21 (3.6%)	43.8%
	坂戸	6,816 (4.1%)	42	28 (4.9%)	66.7%
	下作延	16,724 (10.2%)	100	66 (11.4%)	66.0%
	下野毛	2,937 (1.8%)	17	13 (2.3%)	76.5%
	諏訪	5,218 (3.2%)	32	20 (3.5%)	62.5%
	瀬田	735 (0.5%)	4	2 (0.4%)	50.0%
	久本	8,738 (5.3%)	54	26 (4.5%)	48.1%
	二子	10,155 (6.2%)	61	37 (6.4%)	60.7%
	溝口	11,895 (7.2%)	72	38 (6.6%)	52.8%
	向ヶ丘	1,875 (1.1%)	12	9 (1.6%)	75.0%
高津地区・計	96,089 (58.4%)	582	343 (59.4%)	58.9%	
橋地区	明津	2,496 (1.5%)	15	8 (1.4%)	53.3%
	蟹ヶ谷	5,526 (3.4%)	34	23 (4.0%)	67.6%
	子母口・ 子母口富士見台	7,149 (4.3%)	43	27 (4.7%)	62.8%
	新作	11,171 (6.8%)	69	43 (7.5%)	62.3%
	未長	13,910 (8.5%)	86	39 (6.8%)	45.3%
	千年	9,918 (6.0%)	60	34 (5.9%)	56.7%
	千年新町	2,588 (1.6%)	15	10 (1.7%)	66.7%
	野川	3,680 (2.2%)	22	13 (2.3%)	59.1%
	久末	12,065 (7.3%)	74	37 (6.4%)	50.0%
橋地区・計	68,503 (41.6%)	418	234 (40.6%)	56.0%	
全体・計	164,592 (100.0%)	1000	577 (100.0%)	57.7%	

20歳以上人口は、平成18年3月末の住民基本台帳及び外国人登録原票による

6. 図表の見方

- (1) 表中のnは回答者総数のことである。いくつでも（複数回答）などの場合は回答が2つ以上ありうる。したがって、合計比は100%をこえる。
- (2) 百分比はNを100%として算出し、図表中では原則として単純集計については小数点第2位を四捨五入して第1位まで、その他のクロス集計については小数第1位を四捨五入して整数としたものを使用した。このため、百分比の合計が100%に満たない、又は上回る場合がある。

7. 数の表現

全体 = 調査対象者数

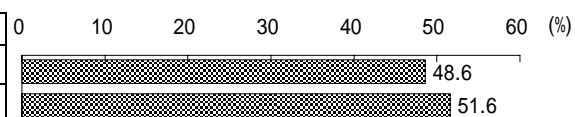
n = 質問ごとの回答者数

. 調査回答者の属性

調査回答者の属性

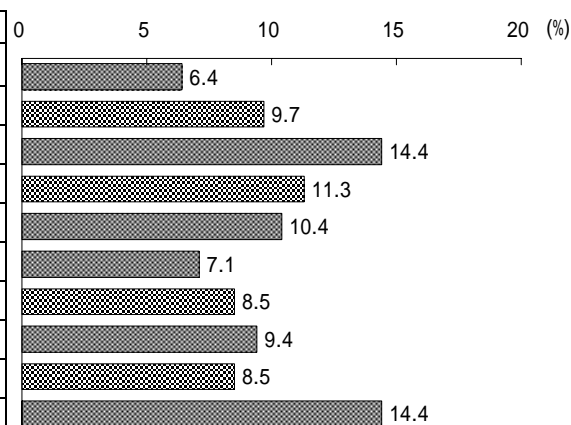
(1) 性別【F1】

	n	構成比
1 男性	279	48.4%
2 女性	298	51.6%
全体	577	100.0%



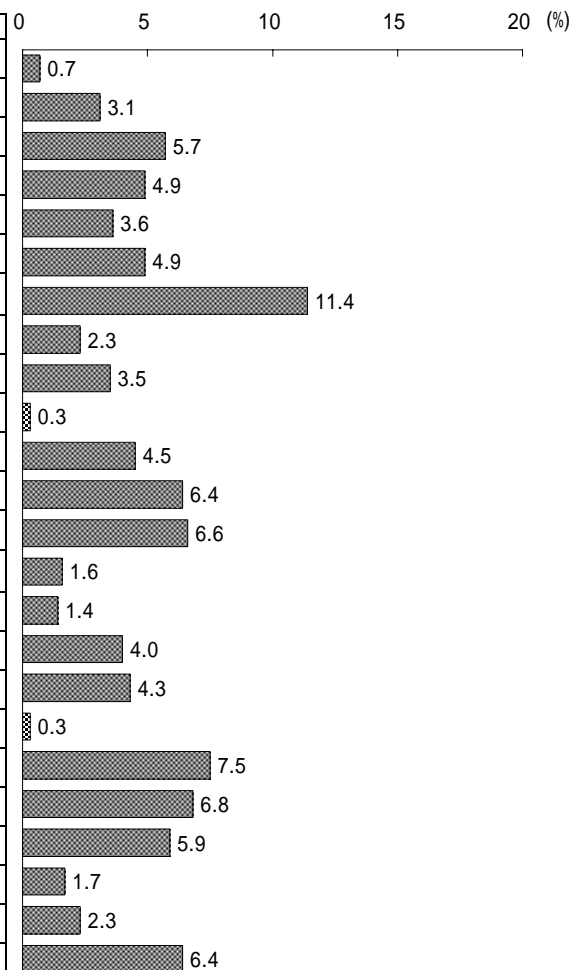
(2) 年齢【F2】

	n	構成比
1 20～24歳	37	6.4%
2 25～29歳	56	9.7%
3 30～34歳	83	14.4%
4 35～39歳	65	11.3%
5 40～44歳	60	10.4%
6 45～49歳	41	7.1%
7 50～54歳	49	8.5%
8 55～59歳	54	9.4%
9 60～64歳	49	8.5%
10 65歳以上	83	14.4%
全体	577	100.0%



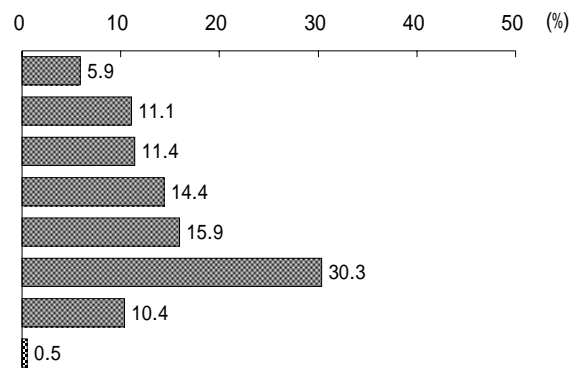
(3) 居住地【F3】

	n	構成比
1 宇奈根	4	0.7%
2 梶ヶ谷	18	3.1%
3 上作延	33	5.7%
4 北見方	28	4.9%
5 久地	21	3.6%
6 坂戸	28	4.9%
7 下作延	66	11.4%
8 下野毛	13	2.3%
9 諏訪	20	3.5%
10 瀬田	2	0.3%
11 久本	26	4.5%
12 二子	37	6.4%
13 溝口	38	6.6%
14 向ヶ丘	9	1.6%
15 明津	8	1.4%
16 蟹ヶ谷	23	4.0%
17 子母口	25	4.3%
18 子母口富士見台	2	0.3%
19 新作	43	7.5%
20 未永	39	6.8%
21 千年	34	5.9%
22 千年新町	10	1.7%
23 野川	13	2.3%
24 久末	37	6.4%
全体	577	100.0%



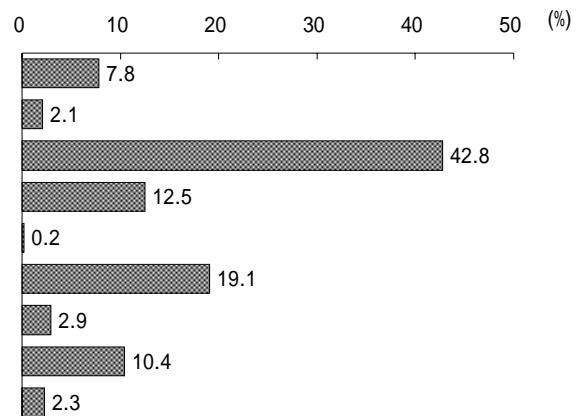
(4) 居住年数【F4】

	n	構成比
1 1年未満	34	5.9%
2 1年～3年未満	64	11.1%
3 3年～5年未満	66	11.4%
4 5年～10年未満	83	14.4%
5 10年～20年未満	92	15.9%
6 20年以上	175	30.3%
7 生まれてからずっと住んでいる	60	10.4%
(無回答)	3	0.5%
全 体	577	100.0%



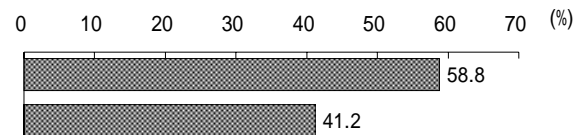
(5) 職業【F5】

	n	構成比
1 自営業主	45	7.8%
2 家族従業(家事手伝い)	12	2.1%
3 勤め(全日)	247	42.8%
4 勤め(パートタイム)	72	12.5%
5 内職	1	0.2%
6 主婦(仕事はしていない)	110	19.1%
7 学生	17	2.9%
8 無職	60	10.4%
9 その他	13	2.3%
全 体	577	100.0%



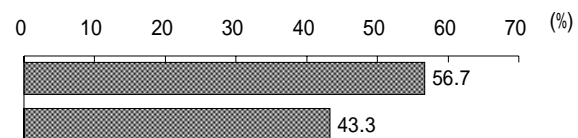
(6) 町内会・自治会加入【F6】

	n	構成比
1 はい(加入している)	339	58.8%
2 いいえ(加入していない)	238	41.2%
全 体	577	100.0%



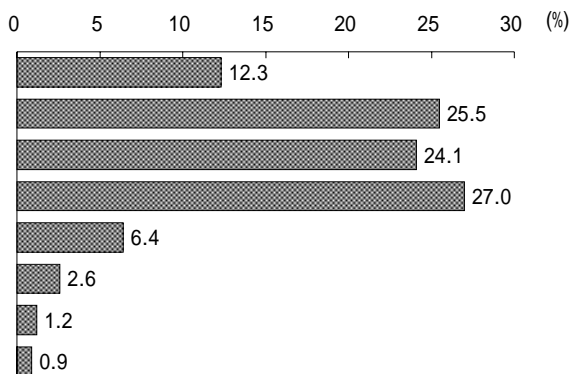
(7) インターネット利用【F7】

	n	構成比
1 はい(利用している)	327	56.7%
2 いいえ(利用していない)	250	43.3%
全 体	577	100.0%



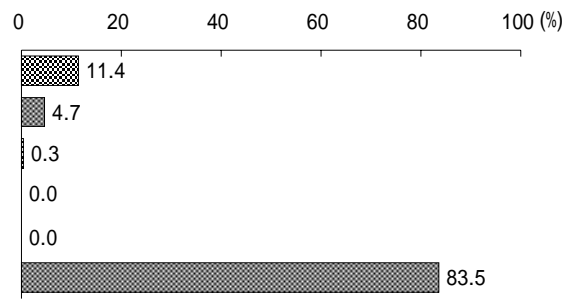
(8) 家族構成【F8】

	n	構成比
1 1人	71	12.3%
2 2人	147	25.5%
3 3人	139	24.1%
4 4人	156	27.0%
5 5人	37	6.4%
6 6人	15	2.6%
7 7人以上	7	1.2%
(無回答)	5	0.9%
全 体	577	100.0%



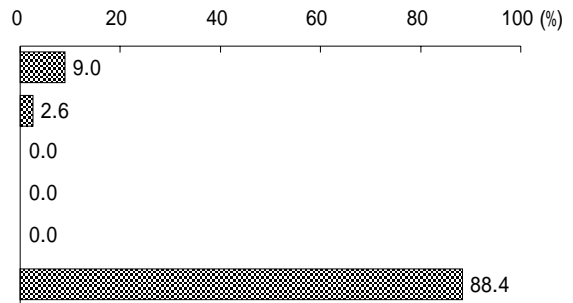
(9) 家族構成 (未就学児) 【 F 8 - 1 】

	n	構成比
1 1人	66	11.4%
2 2人	27	4.7%
3 3人	2	0.3%
4 4人	0	0.0%
5 5人以上	0	0.0%
6 いない	482	83.5%
全 体	577	100.0%



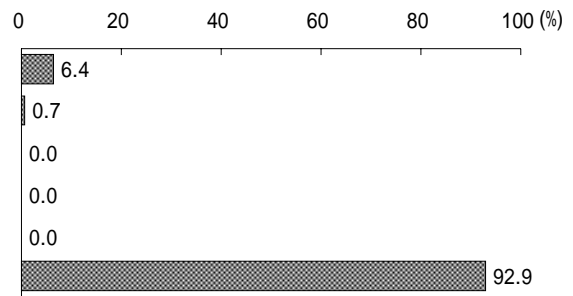
(1 0) 家族構成 (小学生) 【 F 8 - 1 】

	n	構成比
1 1人	52	9.0%
2 2人	15	2.6%
3 3人	0	0.0%
4 4人	0	0.0%
5 5人以上	0	0.0%
6 いない	510	88.4%
全 体	577	100.0%



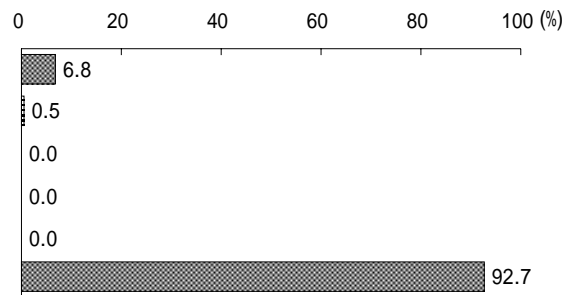
(1 1) 家族構成 (中学生) 【 F 8 - 1 】

	n	構成比
1 1人	37	6.4%
2 2人	4	0.7%
3 3人	0	0.0%
4 4人	0	0.0%
5 5人以上	0	0.0%
6 いない	536	92.9%
全 体	577	100.0%



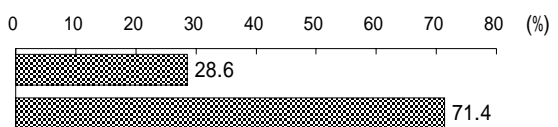
(1 2) 家族構成 (高校生) 【 F 8 - 1 】

	n	構成比
1 1人	39	6.8%
2 2人	3	0.5%
3 3人	0	0.0%
4 4人	0	0.0%
5 5人以上	0	0.0%
6 いない	535	92.7%
全 体	577	100.0%



(1 3) 6 5 歳以上の方との同居 【 F 1 0 】

	n	構成比
1 いる	165	28.6%
2 いない	412	71.4%
全 体	577	100.0%



. 調 查 結 果

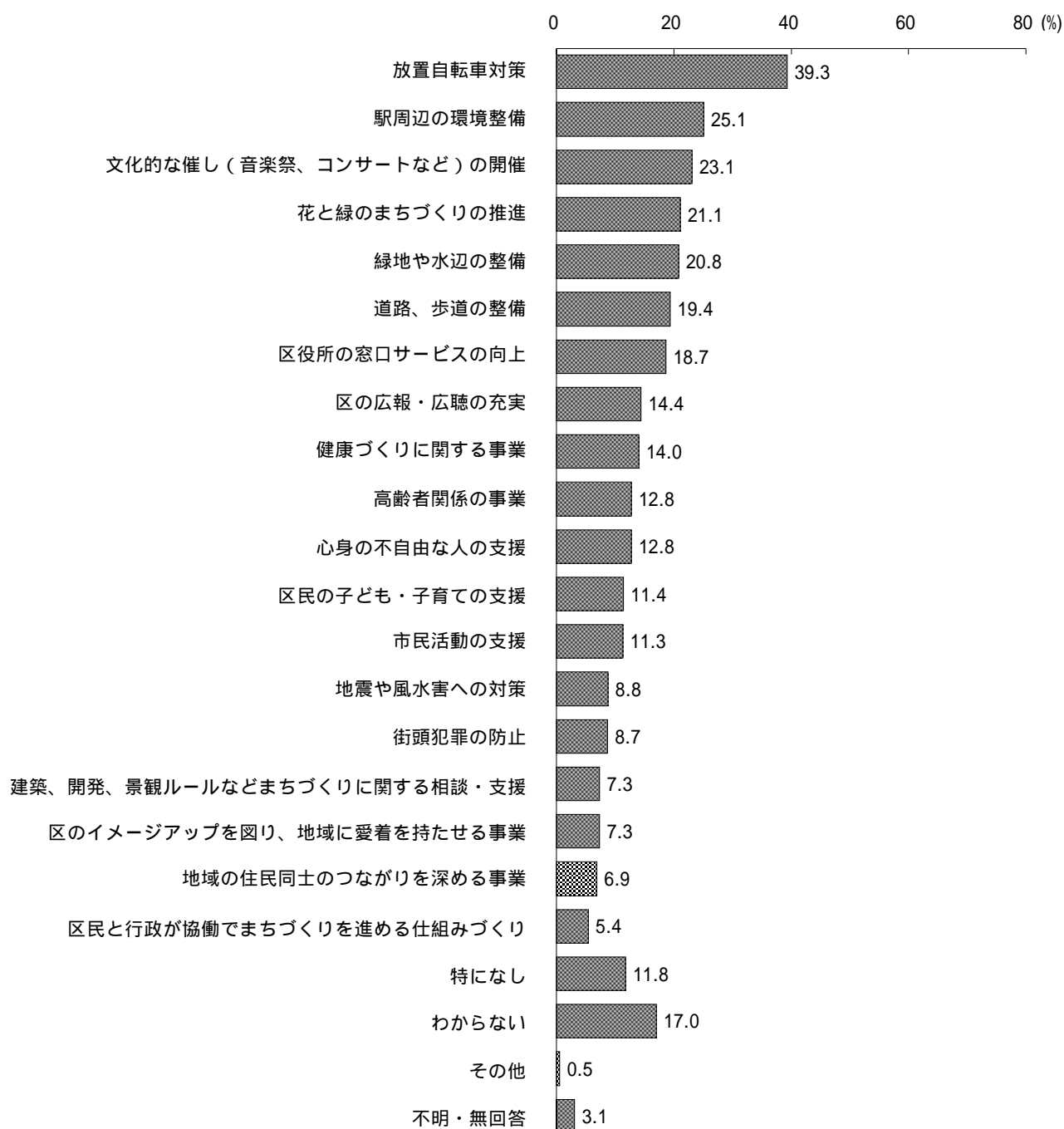
調査結果

1. 区の施策について

(1) 区役所業務の評価

問1 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思われるものは、どれですか。
次の1～22のうち、あてはまるものをいくつでも選んでください。(いくつでも)

図 1 - 1



【全体 = 577】

区役所業務の評価については、「放置自転車対策」(39.3%)が最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(25.1%)、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」(23.1%)と続いている。

「放置自転車対策」の評価が他の業務と比較すると高い。また、「特になし」は11.8%、「わからない」は17.0%である。

図 1 - 2 性別 / 性年代別 / 居住年数別 (上位 6 項目)

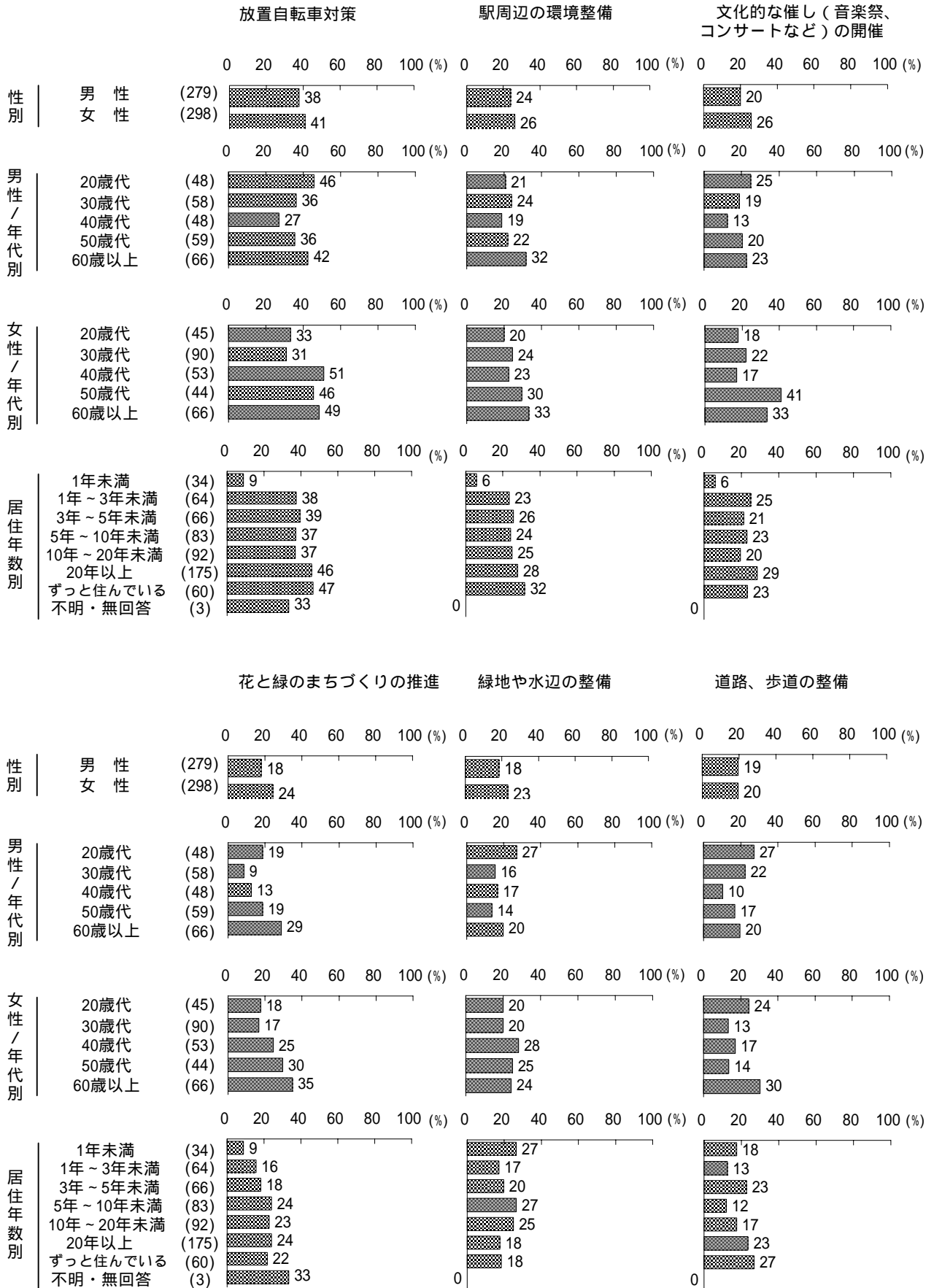
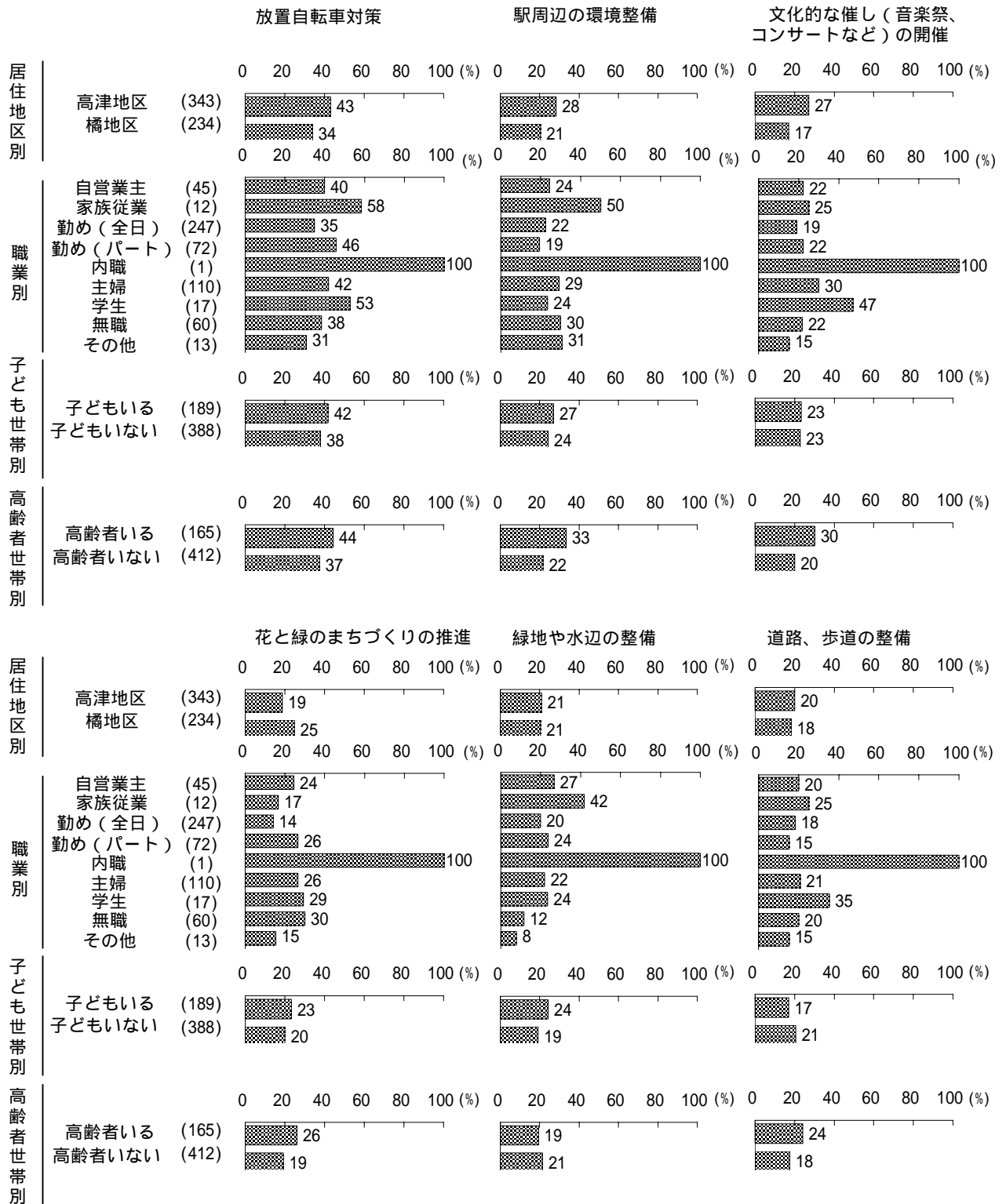


図 1 - 3 居住地区別 / 職業別 / 子ども・高齢者世帯別 (上位 6 項目)



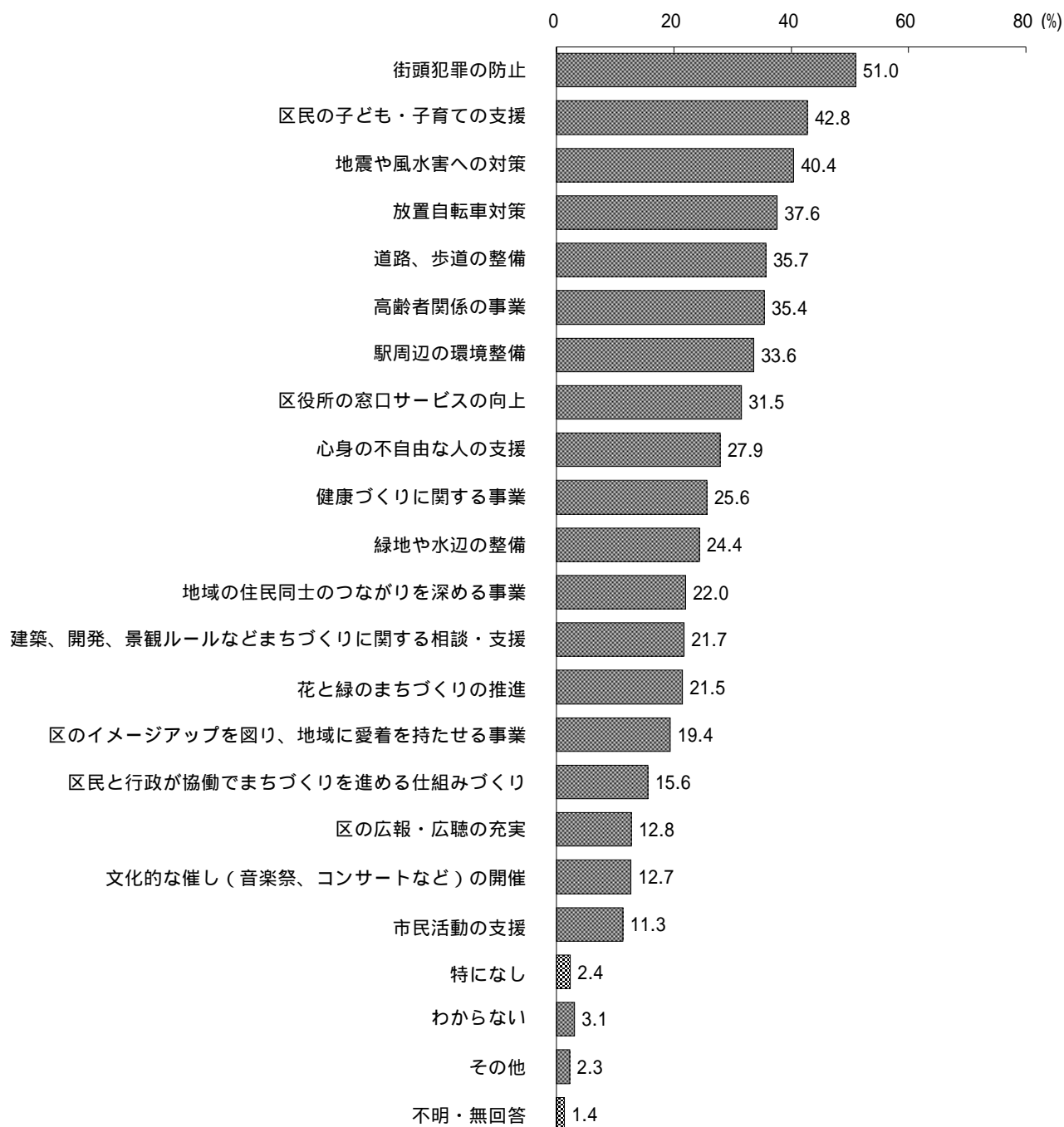
「放置自転車対策」の性年代別をみると、男性は20歳代と60歳以上が高く、それ以外の世代は低くなっているのに対し、女性は高年齢層が高い。また、居住地区別では高津地区が43%、橘地区が34%で9%の差になっている。

「放置自転車対策」以外の項目においても、性年代別の男性の40歳代の結果は低い。

(2) 区役所業務への要望

問2 今後、特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。
次の1～22のうち、あてはまるものをいくつでも選んでください。(いくつでも)

図 2 - 1



【全体 = 577】

区役所業務への要望については、「街頭犯罪の防止」(51.0%)が最も高く、次いで「区民の子ども・子育ての支援」(42.8%)、「地震や風水害への対策」(40.4%)が続いている。

これら上位3つの業務については、問1の業務評価と比較すると差がみられる(「街頭犯罪防止」(8.7%)、「区民の子ども・子育ての支援」(11.4%)、「地震や風水害への対策」(8.8%))。

図 2 - 2 性別 / 性年代別 / 居住年数別 (上位 6 項目)

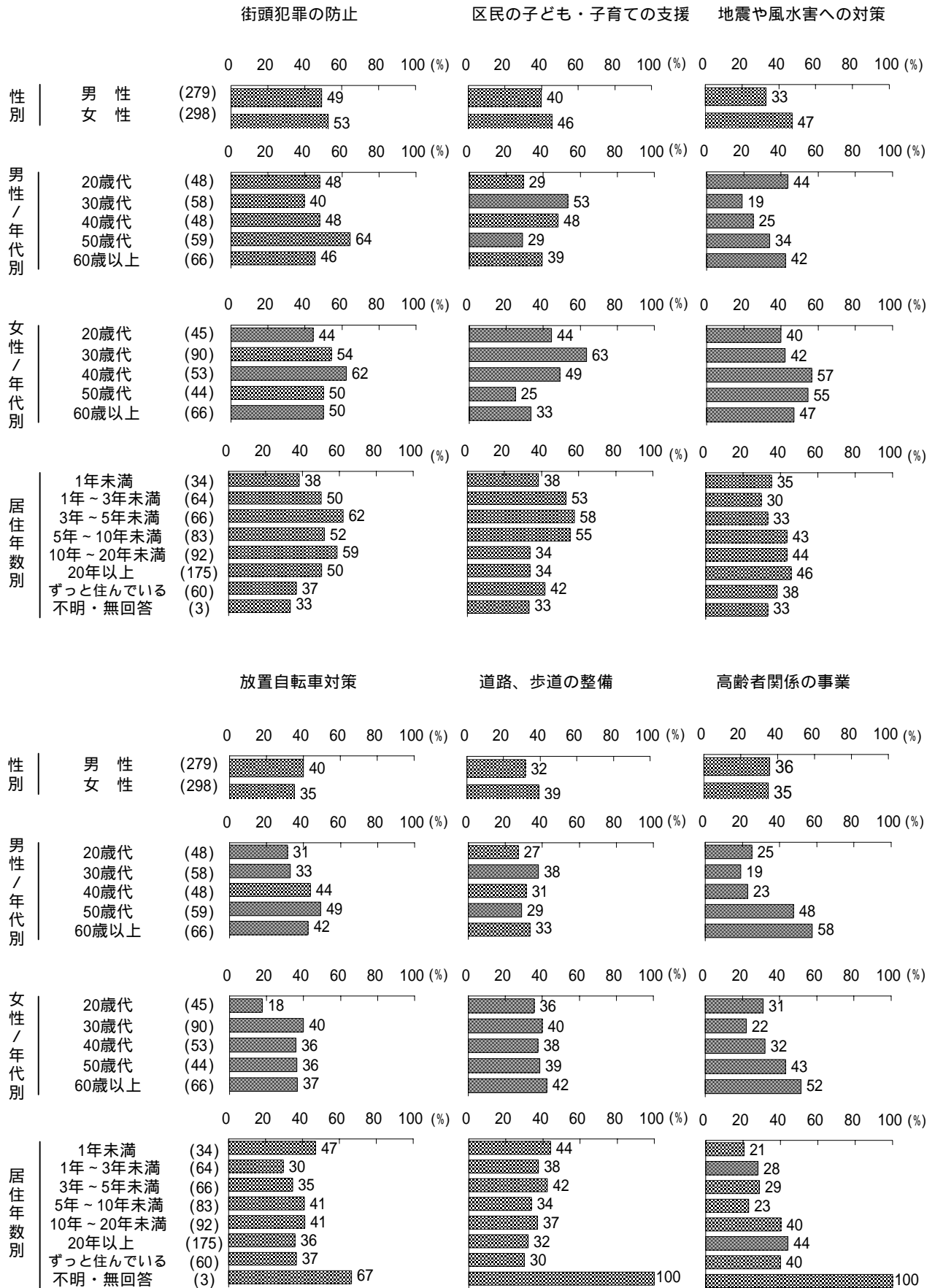
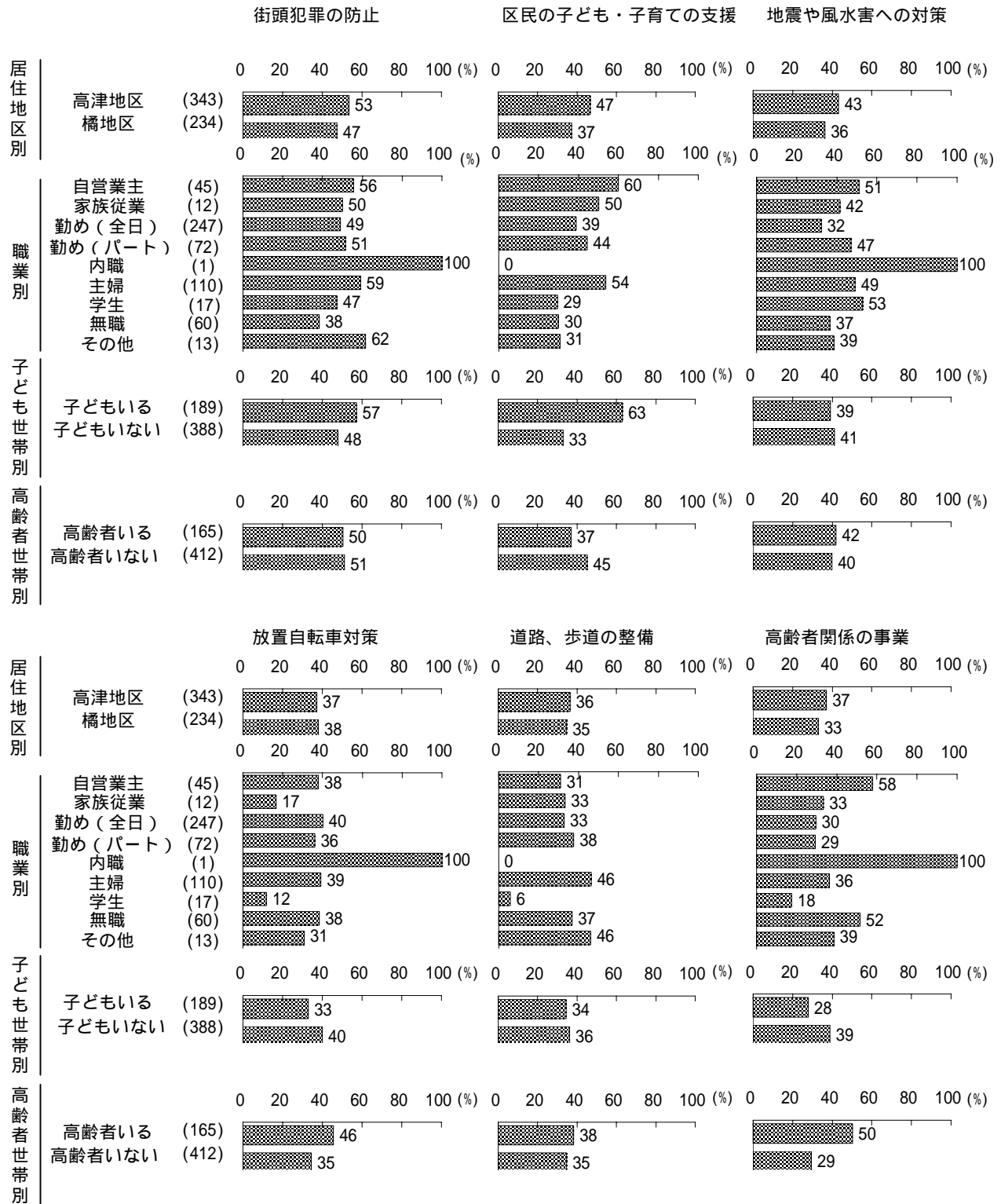


図 2 - 3 居住地区別 / 職業別 / 子ども・高齢者世帯別 (上位 6 項目)



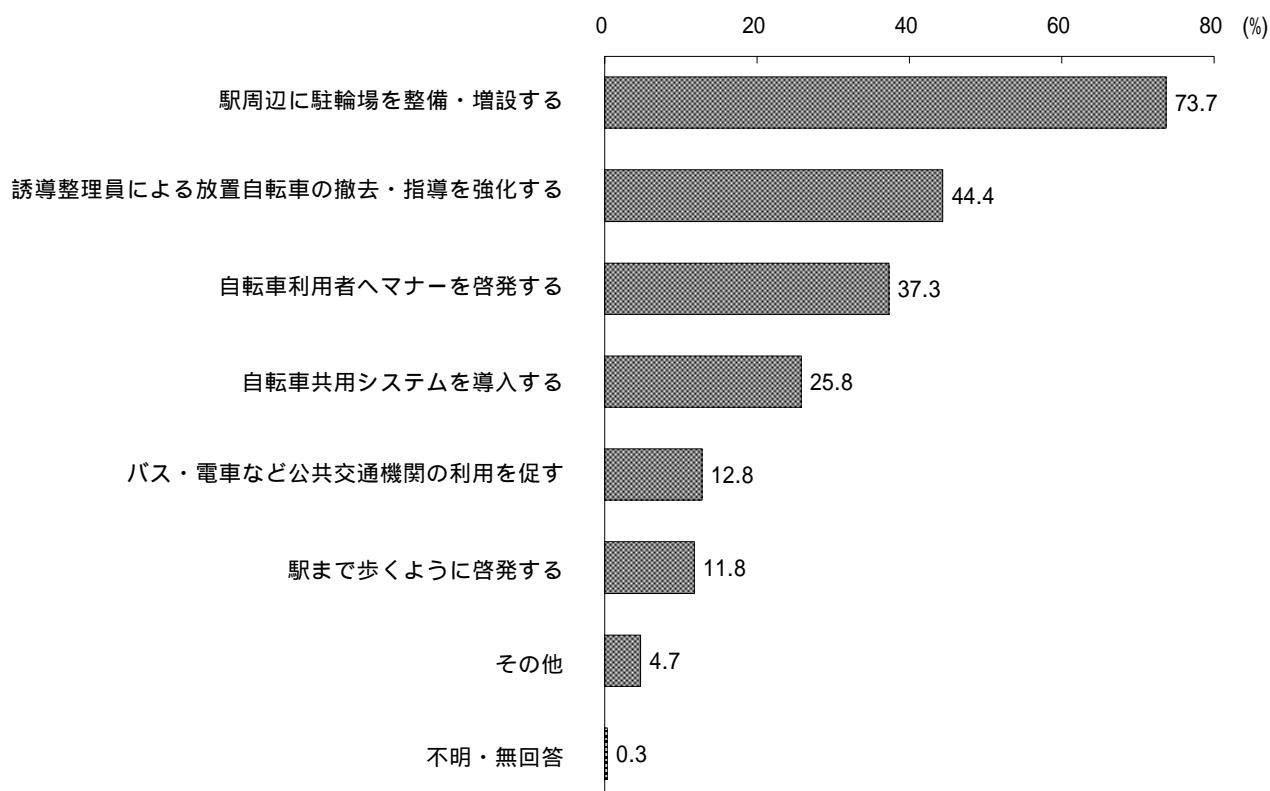
「区民の子ども・子育ての支援」の性年代別では男女とも30歳代、40歳代が高い。また、子どものいる世帯といない世帯でも、いない世帯の33%に対し、いる世帯では63%と30%の開きがある。

「高齢者関係の事業」では、性年代別で男女とも50歳代、60歳以上が40歳代以下の年代より高い。高齢者世帯別では、高齢者がいない世帯の29%に対して、いる世帯は50%と21%の差になっている。

(3) 放置自転車対策

問3 放置自転車対策として、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 3 - 1



【全体 = 577】

放置自転車対策については、「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」(73.7%)が他の手法と比較すると飛び抜けて高い。次いで「誘導整理員による放置自転車の撤去・指導を強化する」(44.4%)、「自転車利用者へマナーを啓発する」(37.3%)と続いている。以下、「自転車共用システムを利用する」(25.8%)、「バス・電車などの公共交通機関の利用を促す」(12.8%)、「駅まで歩くように啓発する」(11.8%)の順になっている。

図 3 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

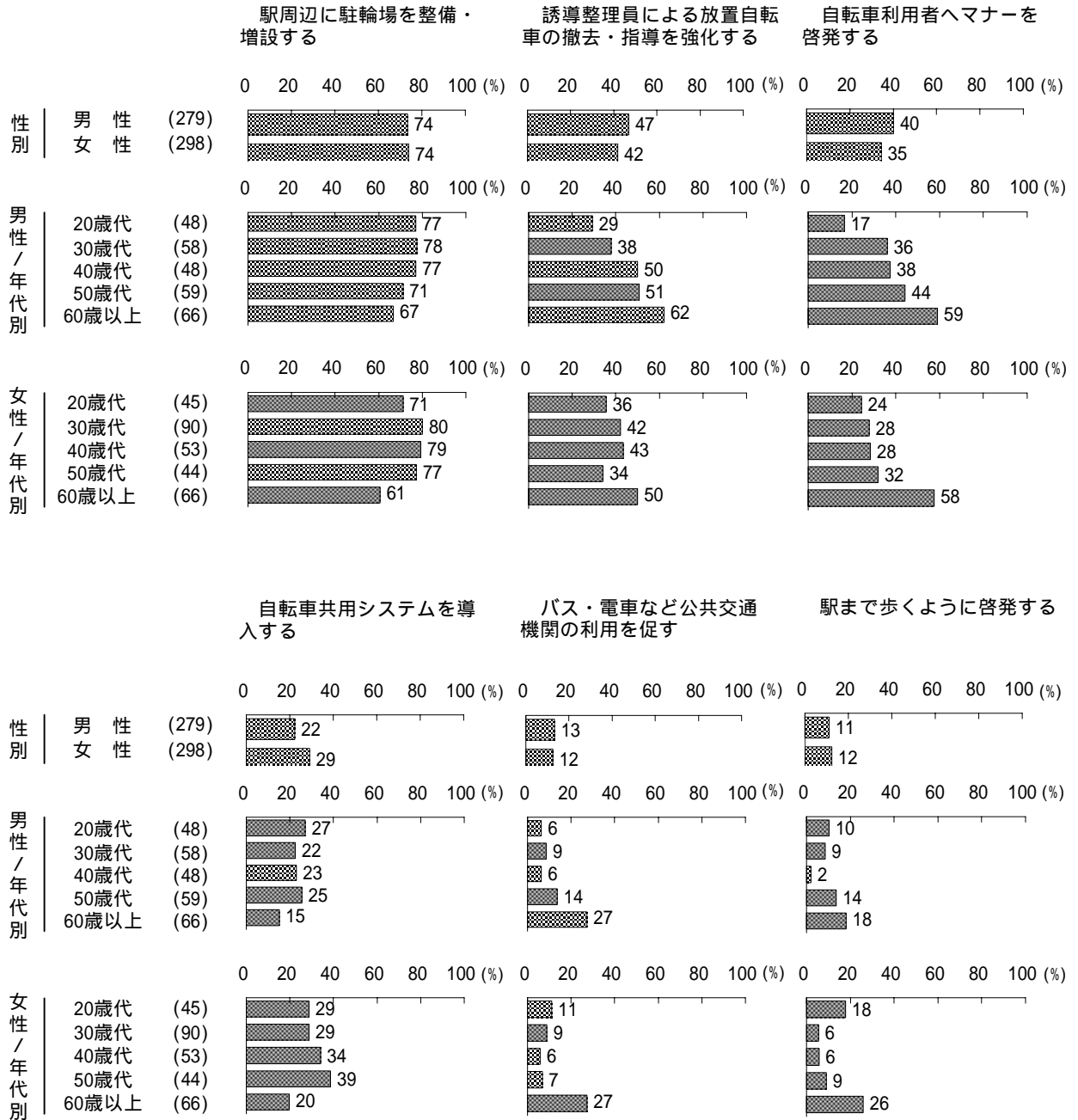
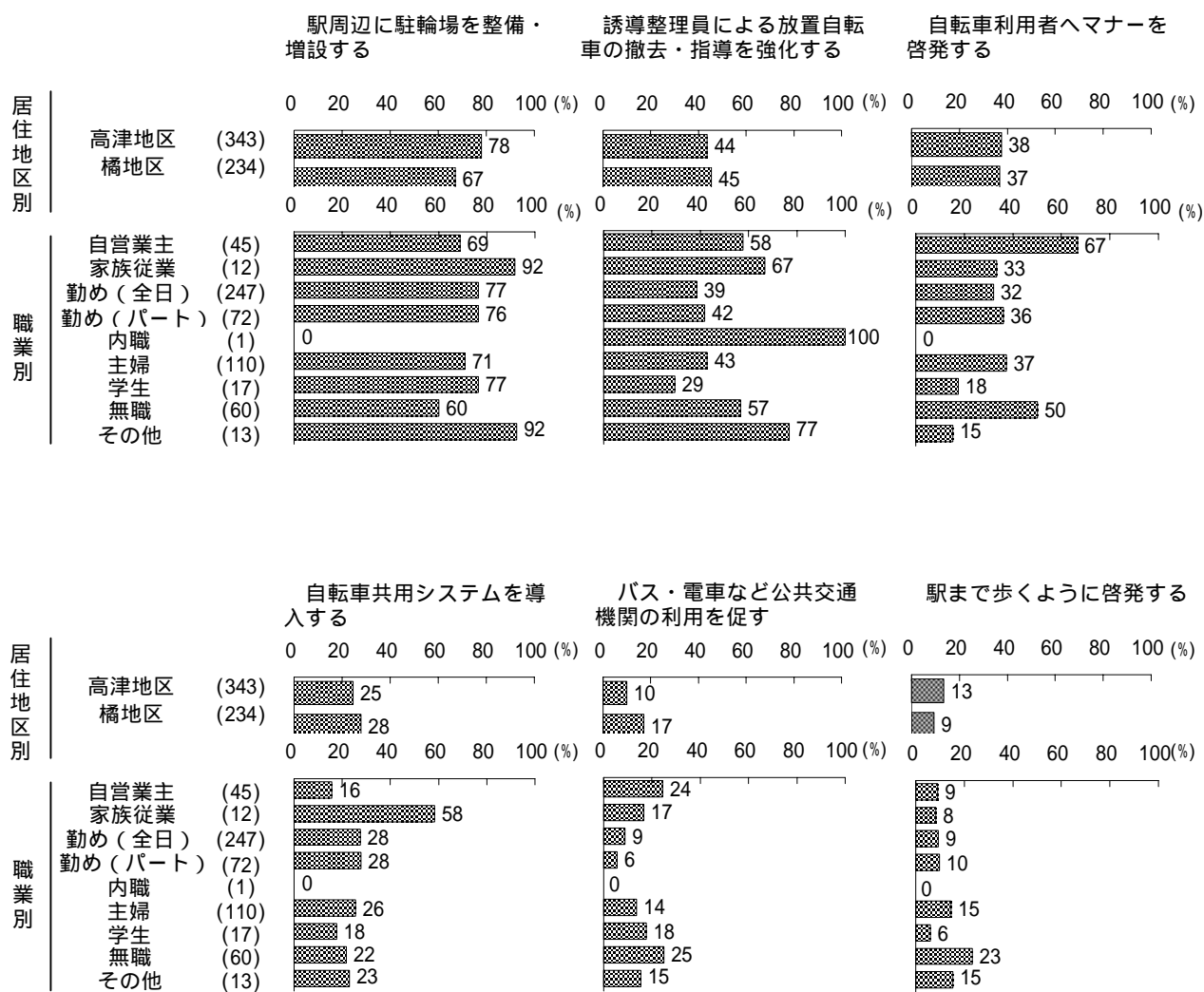


図 3 - 3 居住地区別 / 職業別 (上位 6 項目)



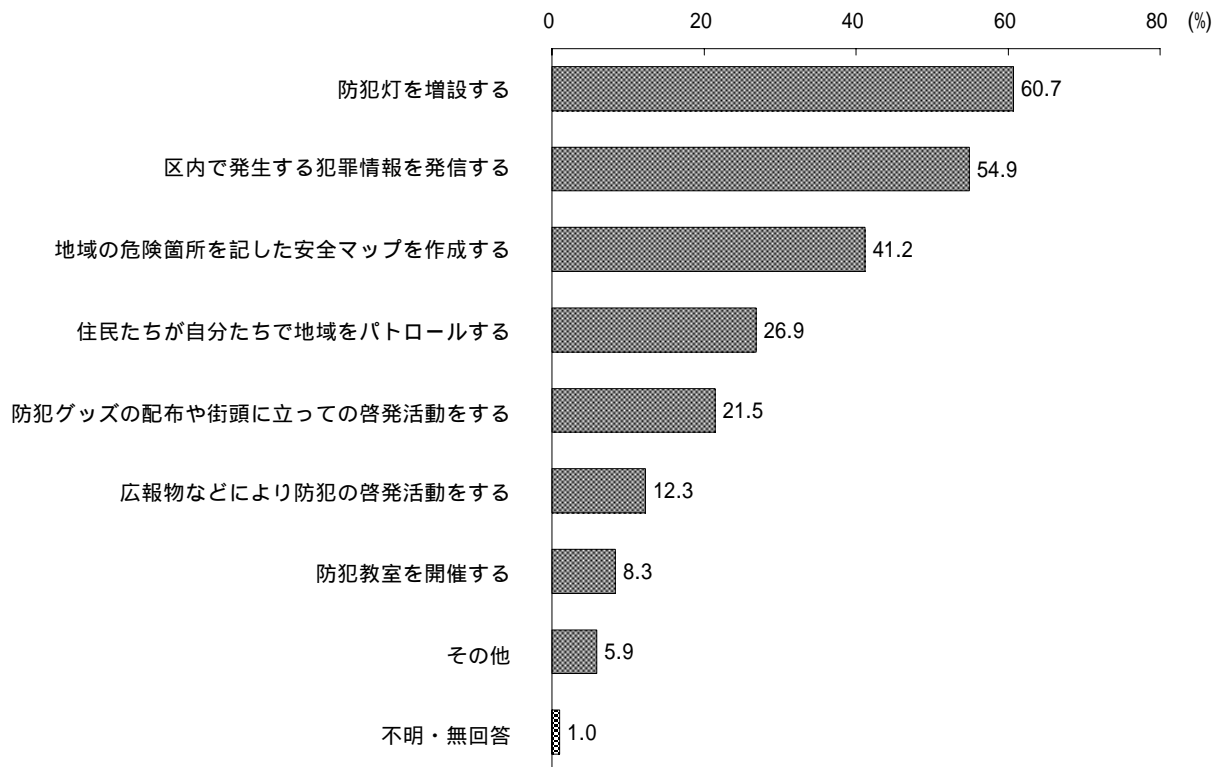
「駅周辺に駐輪場を整備・増設する」の居住地区別をみると、高津地区が78%に対して、橋地区が67%と11%の差となっている。また、性年代別では、男女ともに60歳以上のみ低い。

一方、「誘導整理員による放置自転車の撤去・指導を強化する」、「自転車利用者へマナーを啓発する」の性年代別では、男女とも60歳以上が他の年代と比較して高い。

(4) 街頭犯罪防止対策

問4 街頭犯罪などを防止するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 4 - 1



【全体 = 577】

街頭犯罪などの防止手法については、「防犯灯を増設する」(60.7%)が最も高く、次いで「区内で発生する犯罪情報を発信する」(54.9%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(41.2%)と続いている。以下、「住民が自分たちで地域をパトロールする」(26.9%)、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」(21.5%)、「広報物などにより防犯の啓発活動をする」(12.3%)、「防犯教室を開催する」(8.3%)の順になっている。

図 4 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

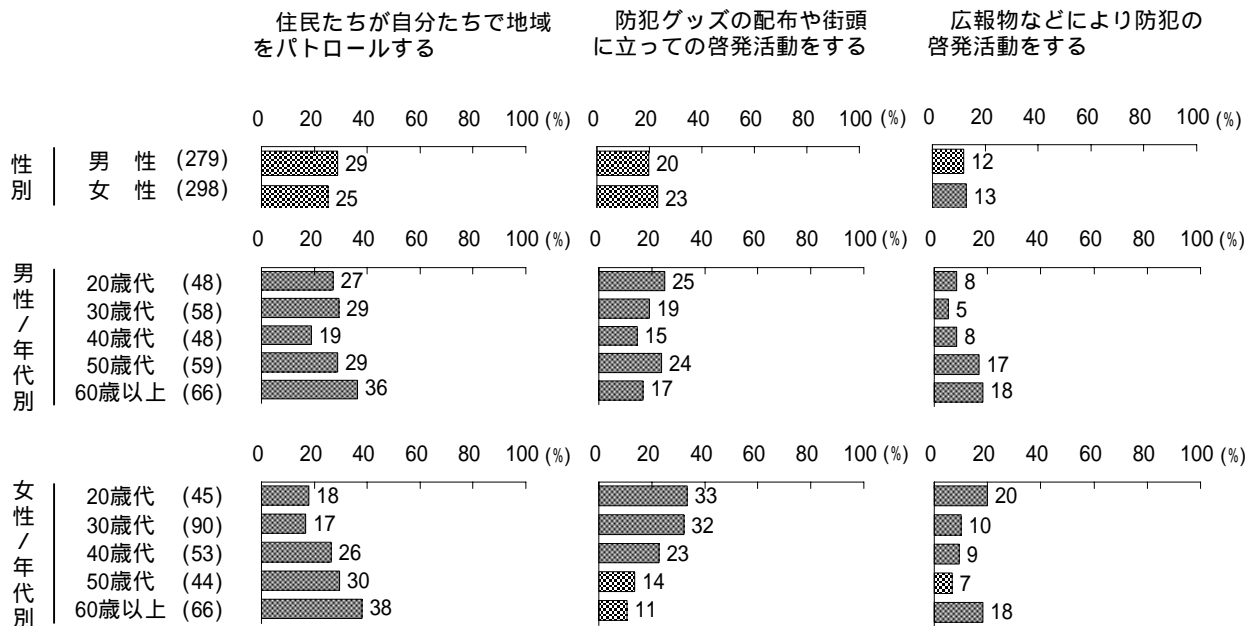
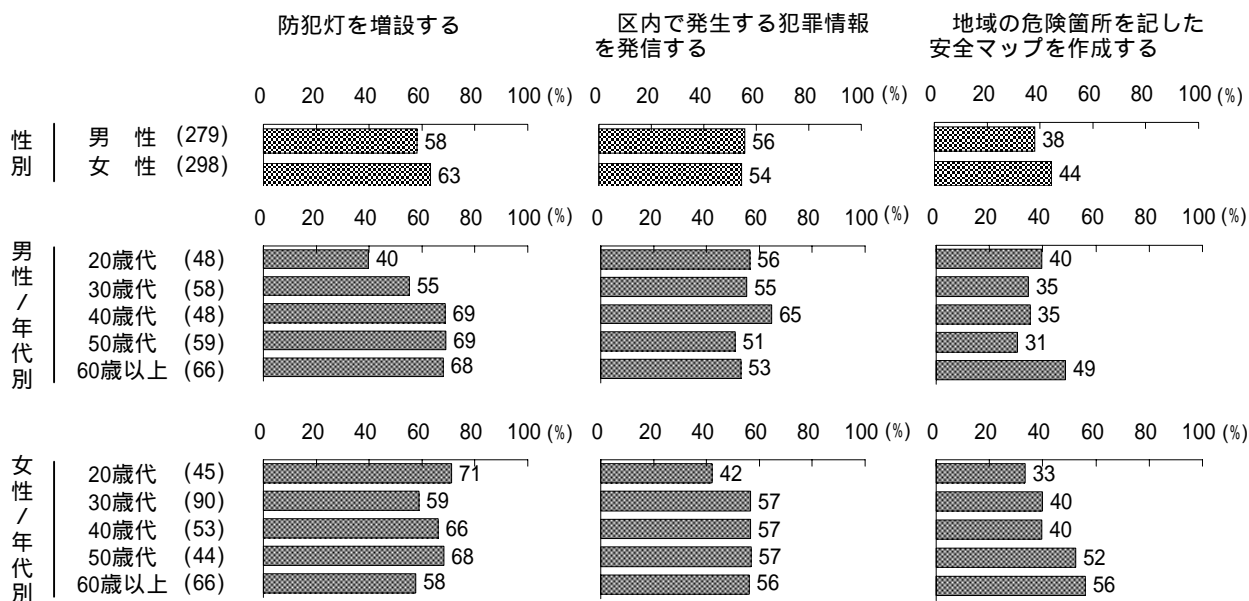
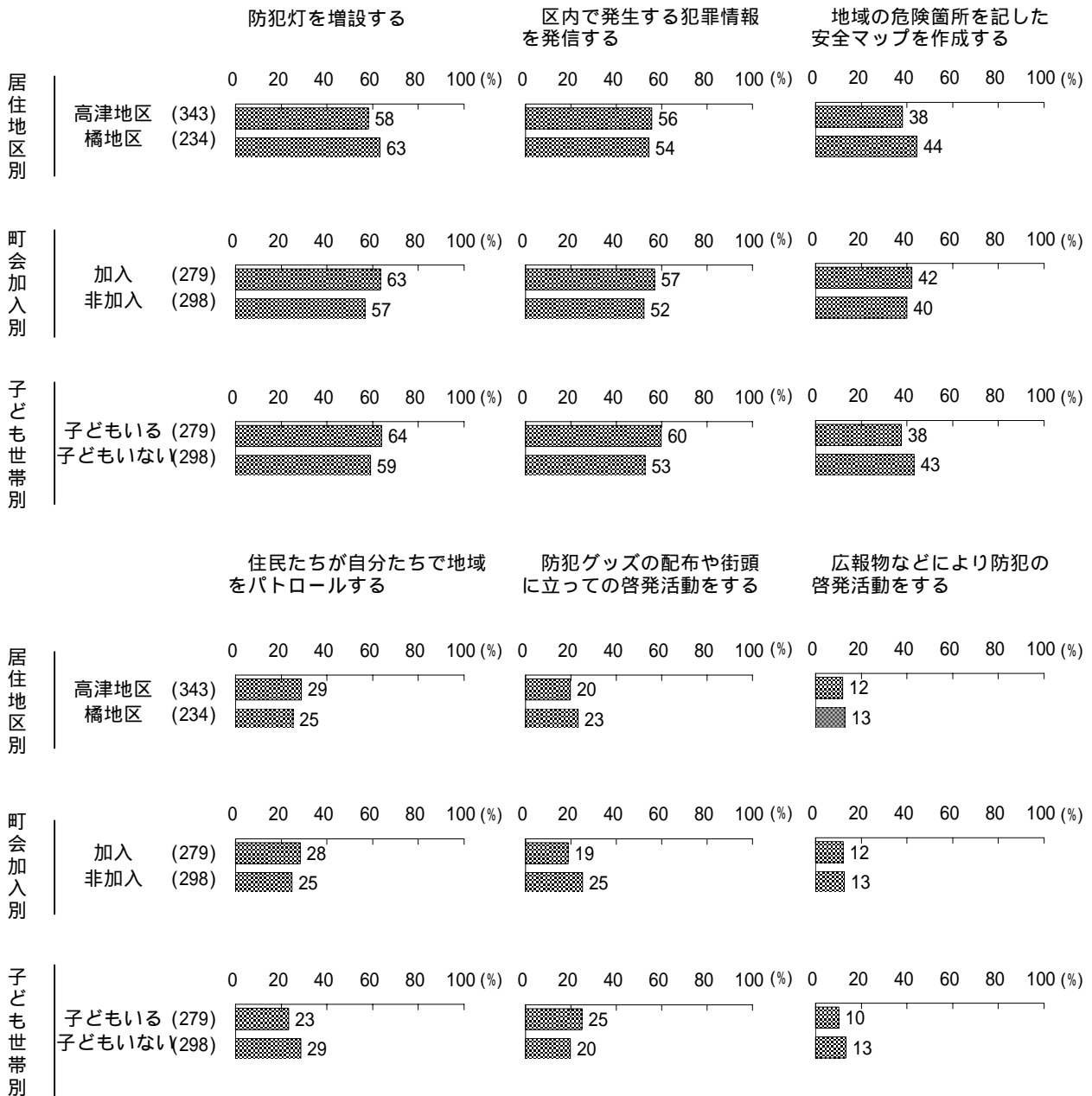


図 4 - 3 居住地区別 / 町会加入別 / 子ども世帯別 (上位 6 項目)



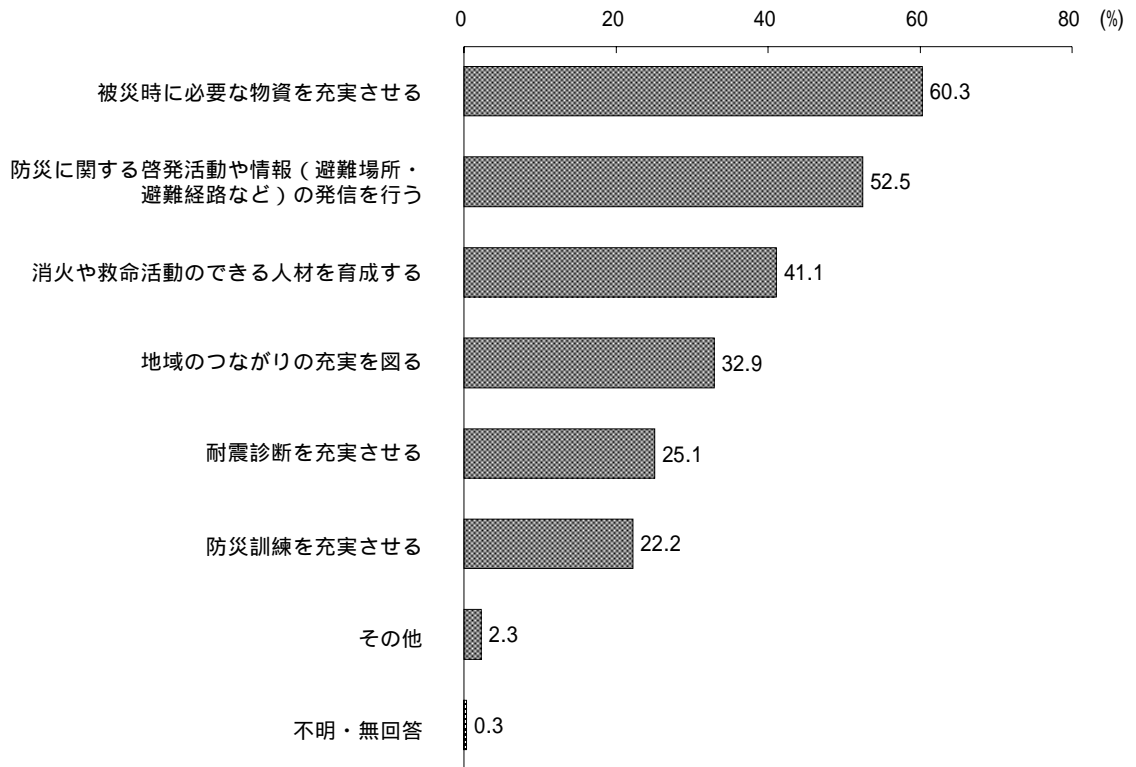
「防犯灯を増設する」の性年代別をみると、最も高いのは女性20歳代の71%であり、逆に最も低いのは男性20歳代の40%と31%の差になっている。

また、「区内で発生する犯罪情報を発信する」の性年代別をみると、女性20歳代のみ他の年代と比較すると低い。なお、女性20歳代は「防犯灯を増設する」、「防犯グッズの配布や街頭に立っての啓発活動をする」、「広報物などにより防犯の啓発活動をする」が一番高いものの、他の項目は他の年代と比較して低いのが特徴的である。

(5) 地震や風水害対策

問5 地震や風水害への対策として、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 5 - 1



【全体 = 577】

地震や風水害への対策については、「被災時に必要な物資を充実させる」（60.3%）が最も高く、次いで「防災に関する啓発活動や情報（避難場所・避難経路など）の発信を行う」（52.5%）、「消火や救命活動のできる人材を育成する」（41.1%）と続いている。以下、「地域のつながりの充実を図る」（32.9%）、「耐震診断を充実させる」（25.1%）、「防災訓練を充実させる」（22.2%）の順になっている。

図 5 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

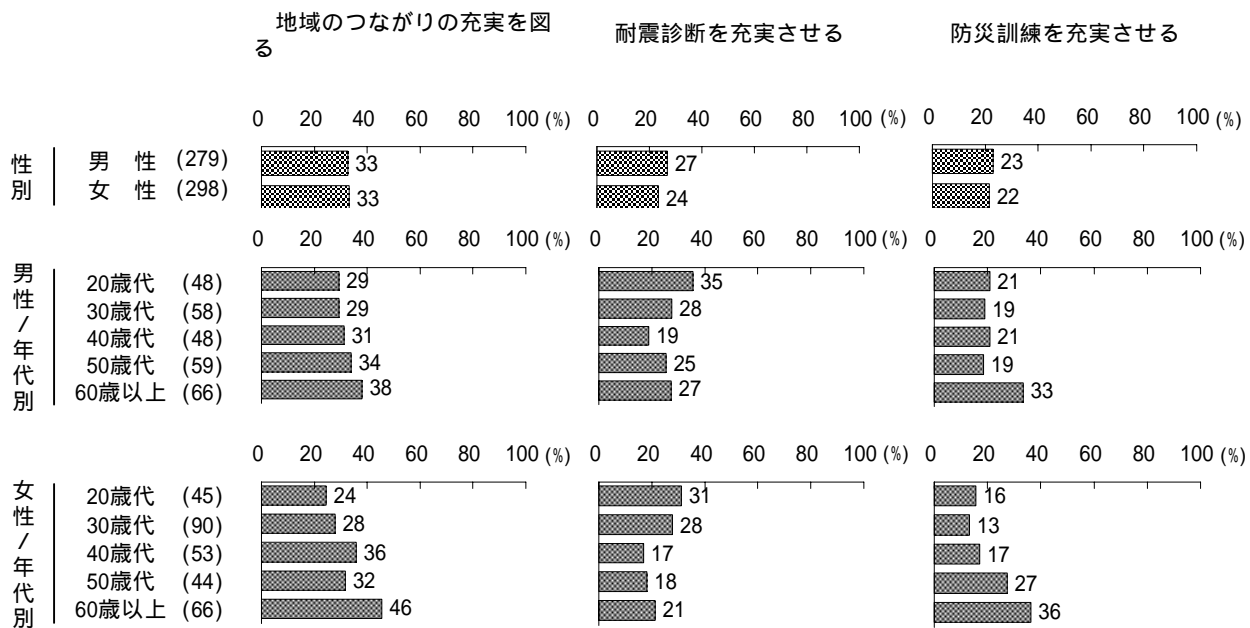
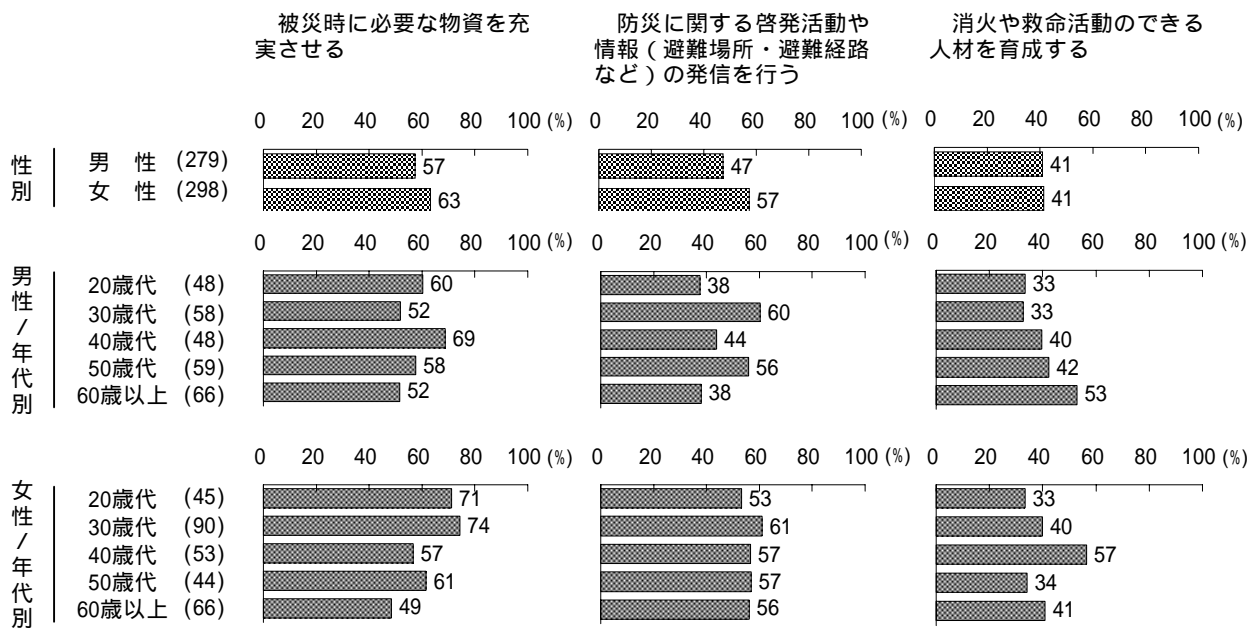
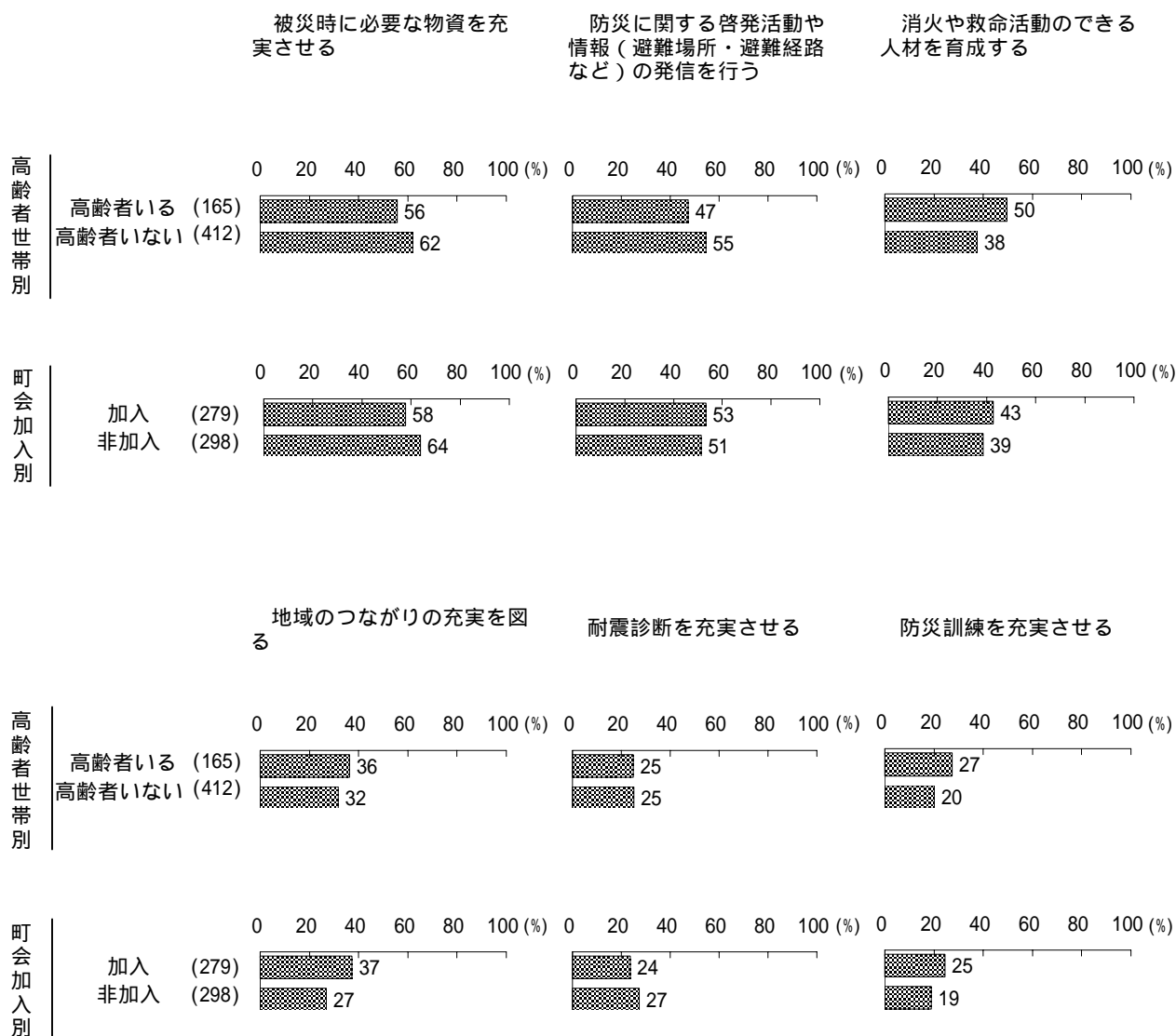


図 5 - 3 高齢者世帯別 / 町会加入別 (上位 6 項目)



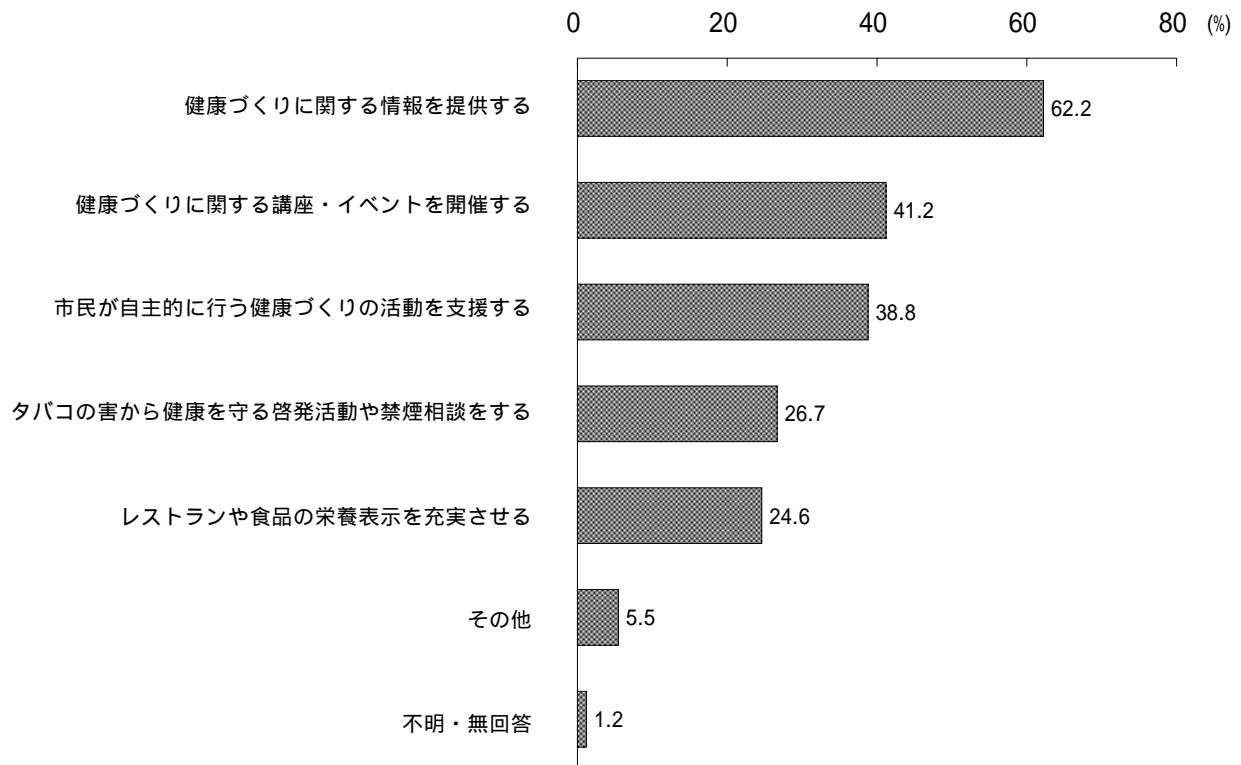
「防災に関する啓発活動や情報 (避難場所・避難経路など) の発信を行う」の性別では男性47%、女性57%と10%の差になった。また、性年代別では、男性の30歳代、50歳代が高い。一方、女性の年代別ではあまり差がみられない。

「消火や救命活動のできる人材を育成する」の性年代別では、男性では高年層になるほど結果が高くなっていくのに対し、女性は40歳代だけ57%と高い結果になった。また、高齢者世帯別は高齢者がいる世帯で50%、いない世帯で38%と12%の差になっている。

(6) 健康推進

問6 区民の健康づくりを推進していくためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 6 - 1



【全体 = 577】

区民の健康づくり推進については、「健康づくりに関する情報を提供する」(62.2%)が最も高く、やや差があって「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」(41.2%)、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」(38.8%)と続いている。以下、「タバコの害から健康を守る啓発活動や禁煙相談をする」(26.7%)、「レストランや食品の栄養表示を充実させる」(24.6%)の順になっている。

図 6 - 2 性別 / 性年代別 (上位 5 項目)

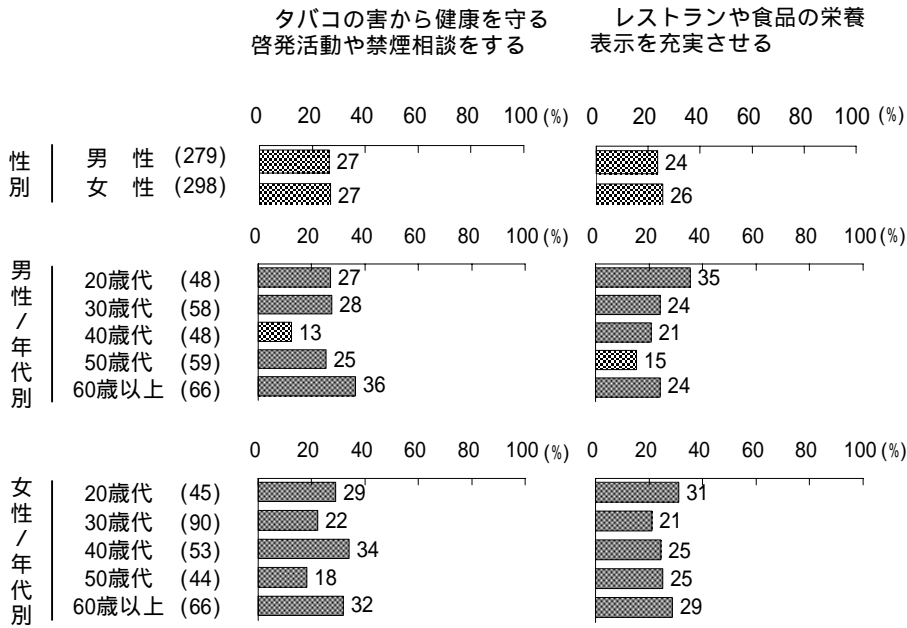
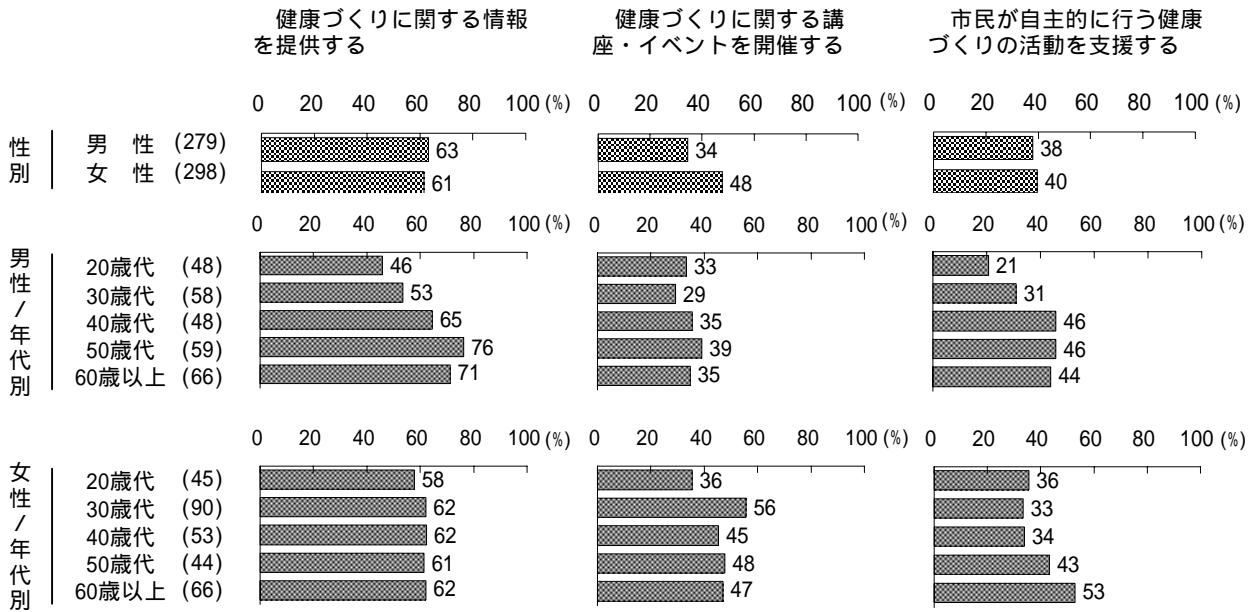
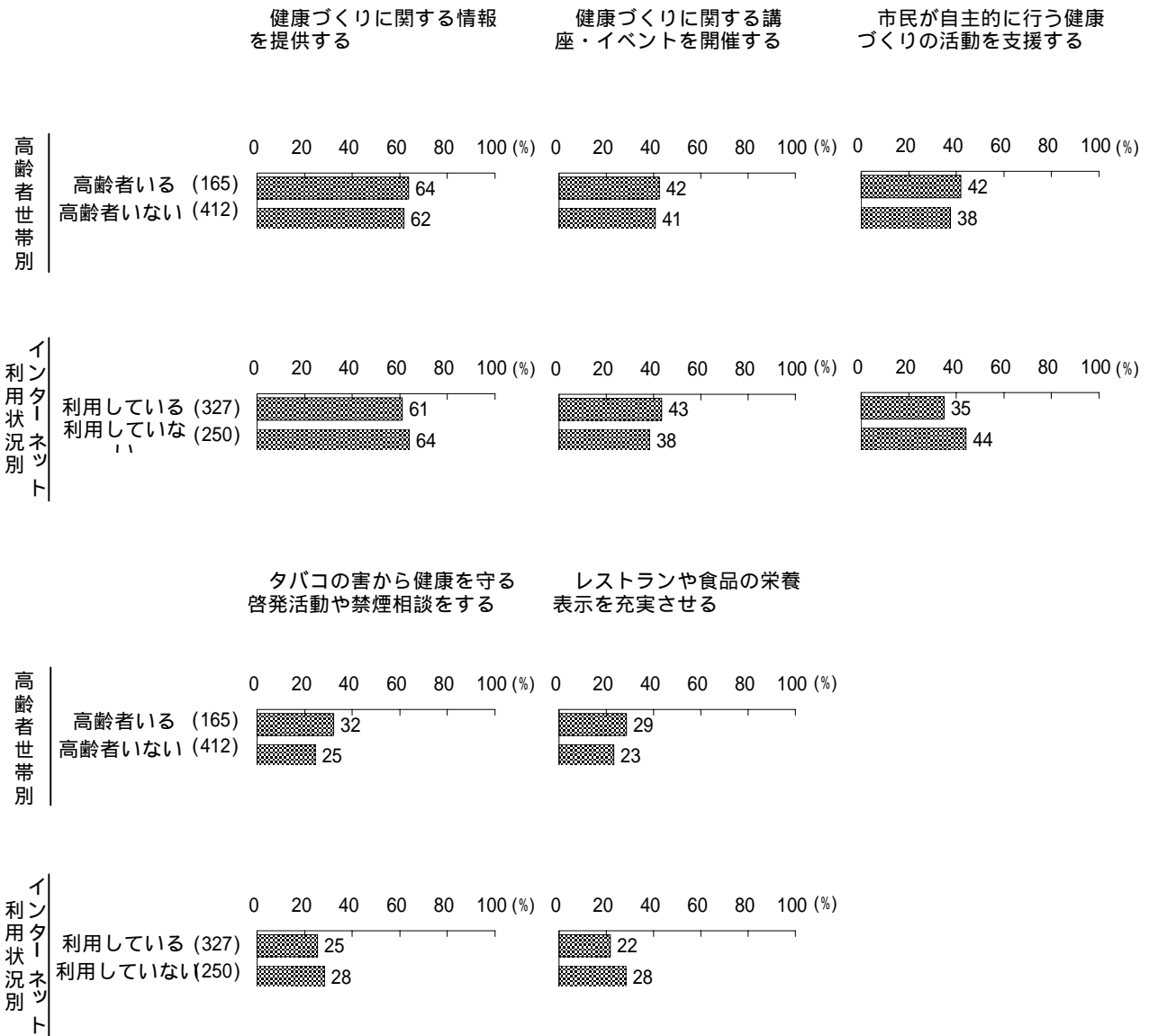


図 6 - 3 高齢者世帯別 / インターネット利用状況別 (上位 5 項目)



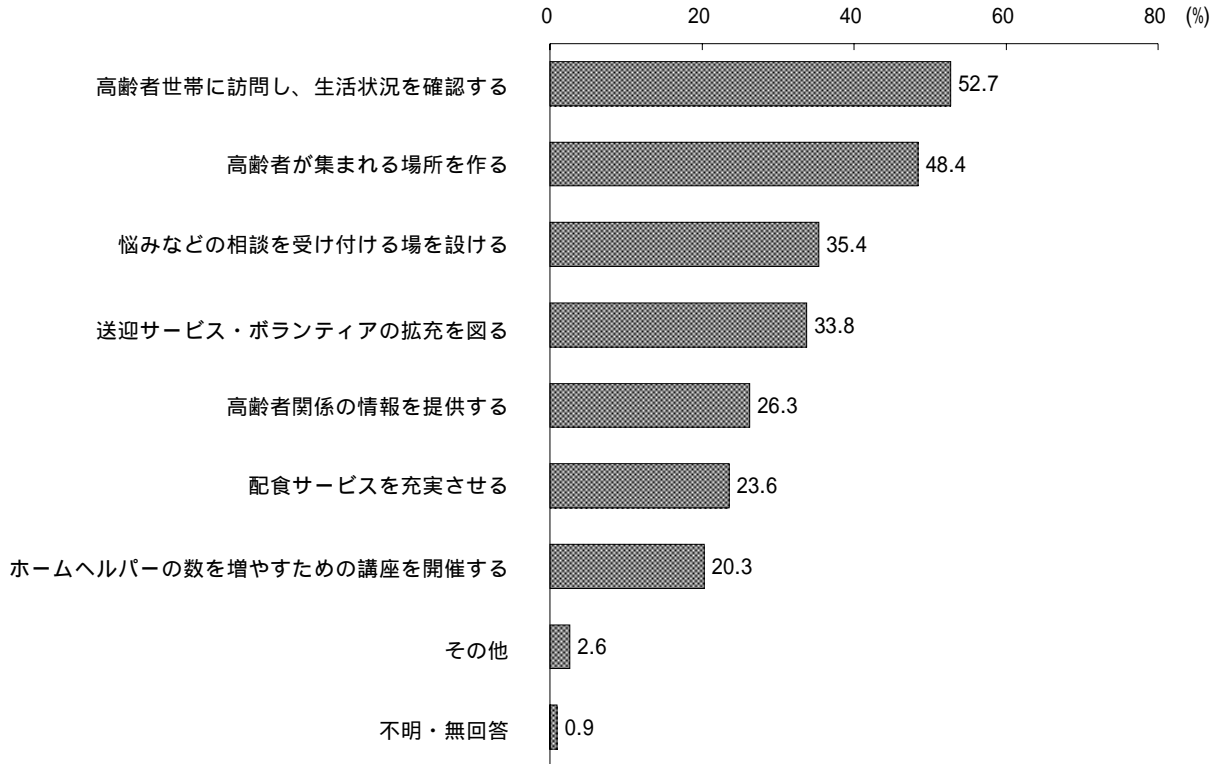
「健康づくりに関する情報を提供する」の性年代別の男性は、60歳以上を除いて、高年層になるほど結果が高くなっている。一方、女性はあまり差がみられない。

「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」の性別は、男性は34%、女性は48%と14%の差になっている。また、性年代別では、30歳代で男性が29%、女性が56%と27%の差になっている。

(7) 高齢者支援

問7 高齢者を支援するためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 7 - 1



【全体 = 577】

高齢者支援については、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」(52.7%)、「高齢者が集まれる場所をつくる」(48.4%)が上位を形成している。以下、「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」(35.4%)、「送迎サービス・ボランティアの拡充を図る」(33.8%)、「高齢者関係の情報を提供する」(26.3%)、「配食サービスを充実させる」(23.6%)、「ホームヘルパーの数を増やすための講座を開催する」(20.3%)と続いている。

図 7 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

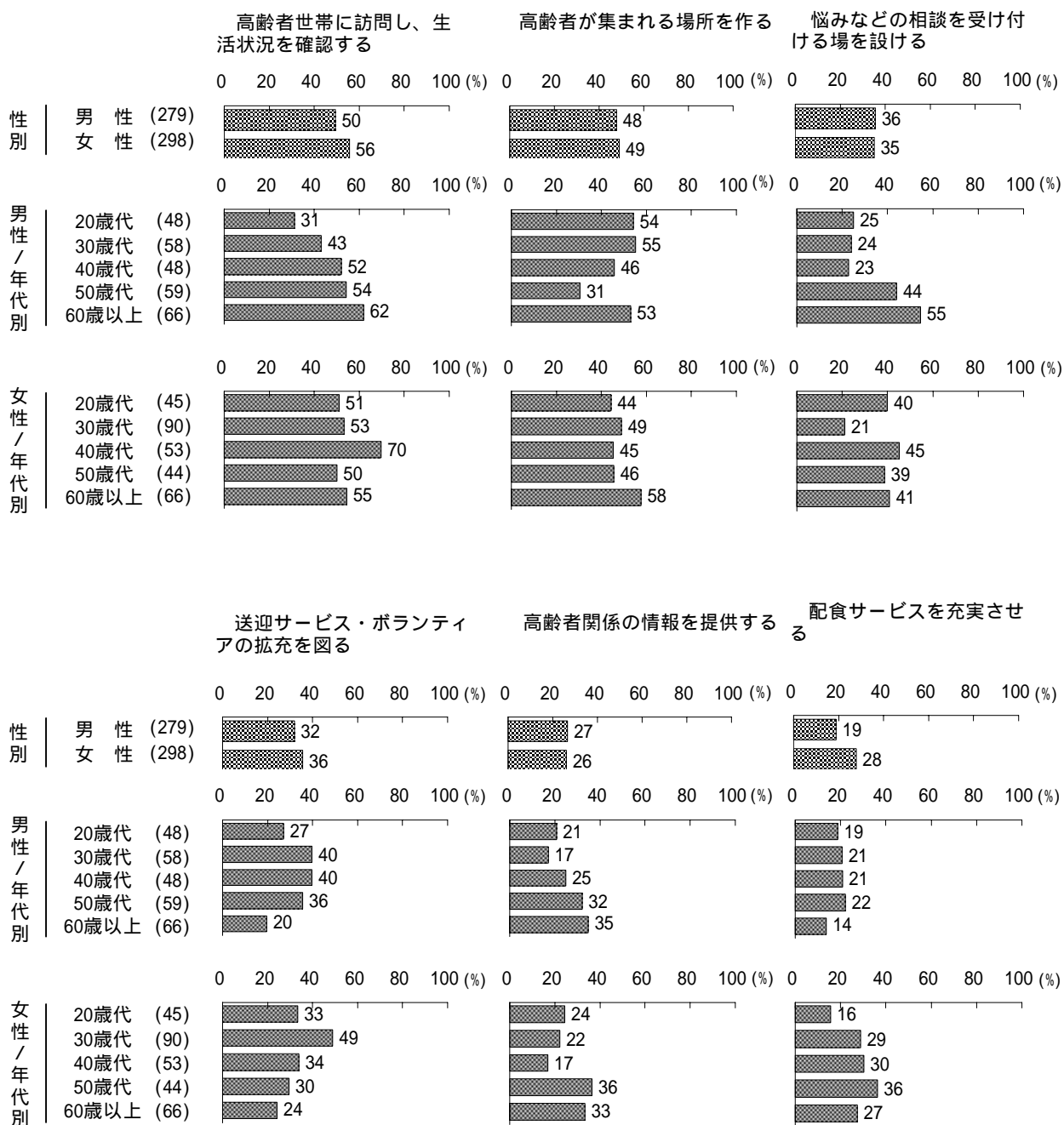
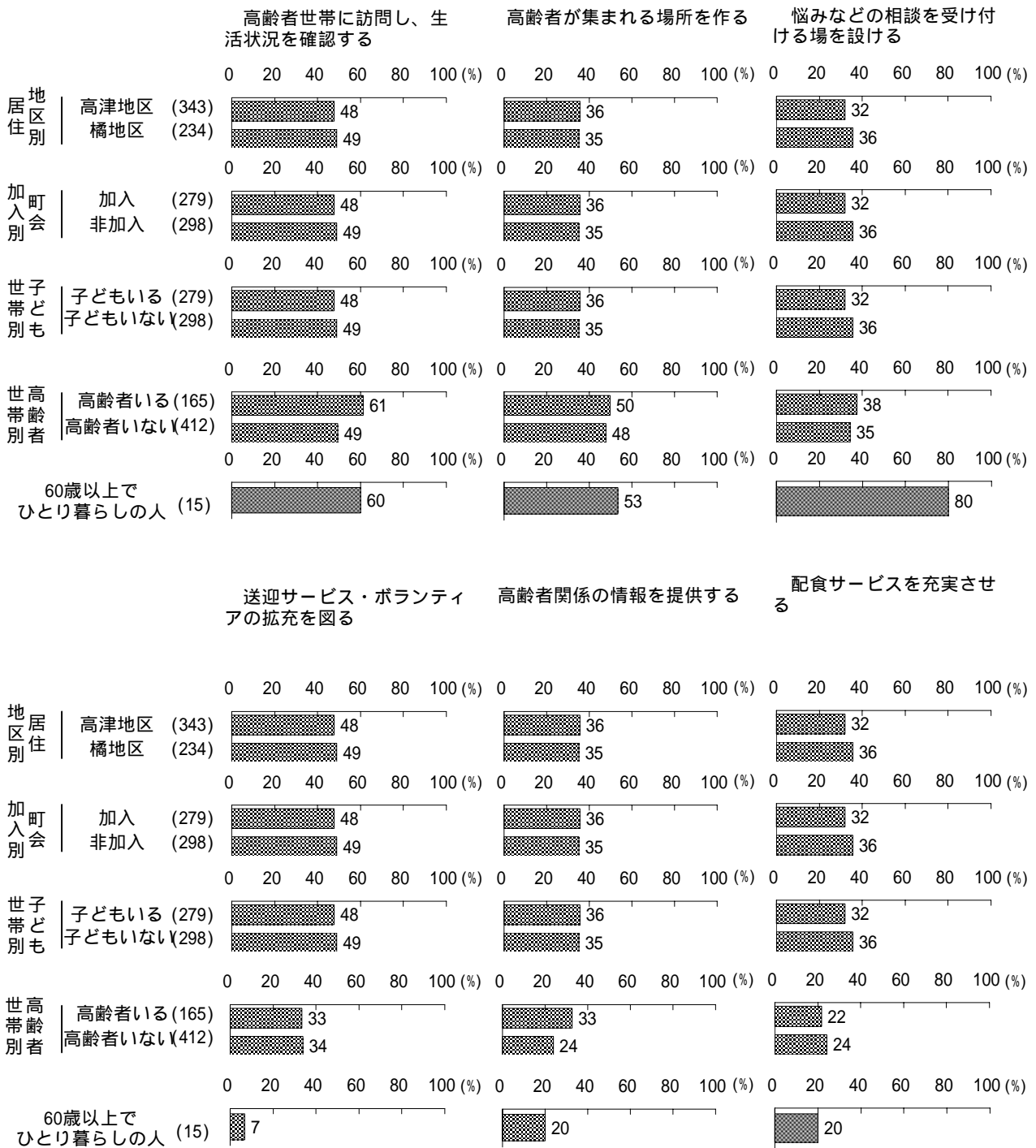


図 7 - 3 居住地区 / 町会加入別 / 子ども世帯別 / 高齢者世帯別 (上位6項目)



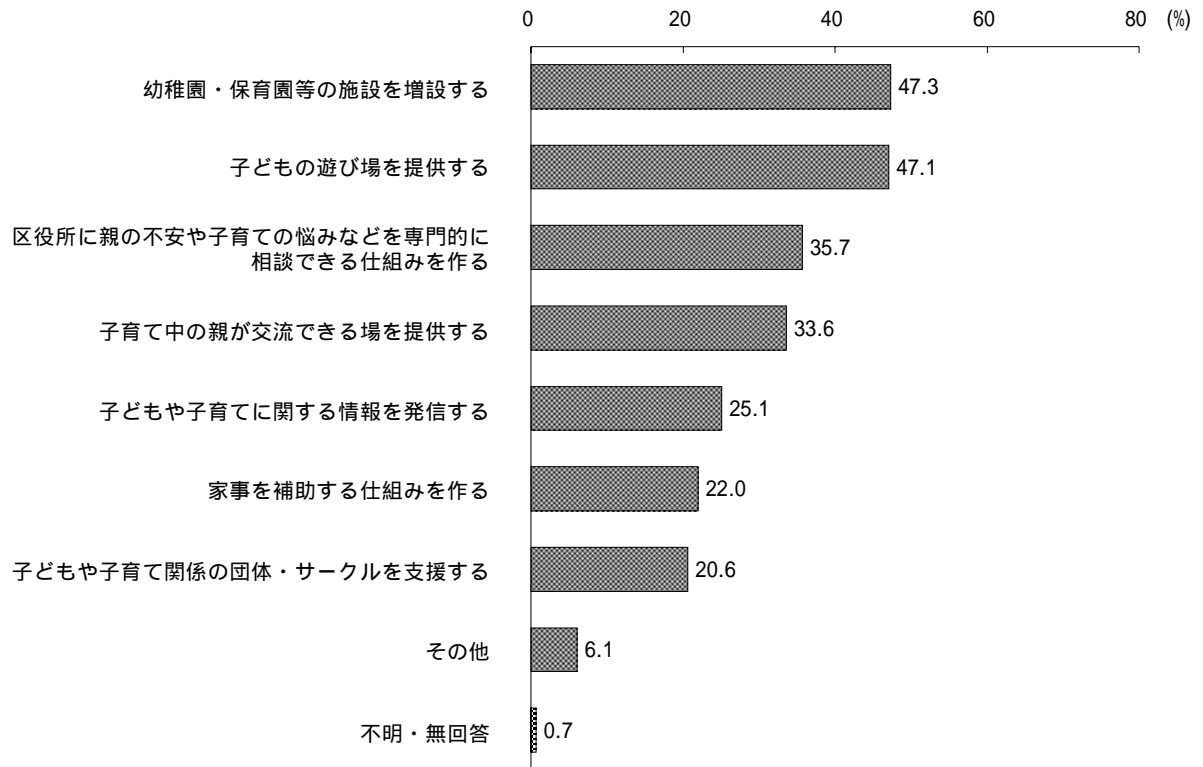
「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」の性年代別をみると、男性は高年層になるほど高くなるのに対して、女性では40歳代だけが抜きん出て高い。

「悩みなどの相談を受け付ける場を設ける」の性年代別では、男性は50歳代、60歳以上が40歳代以下の年代よりも高いが、女性では30歳代だけが低い。また、60歳以上でひとり暮らしの人の結果も非常に高い

(8) 子育て支援

問8 子どもや子育てを支援するためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

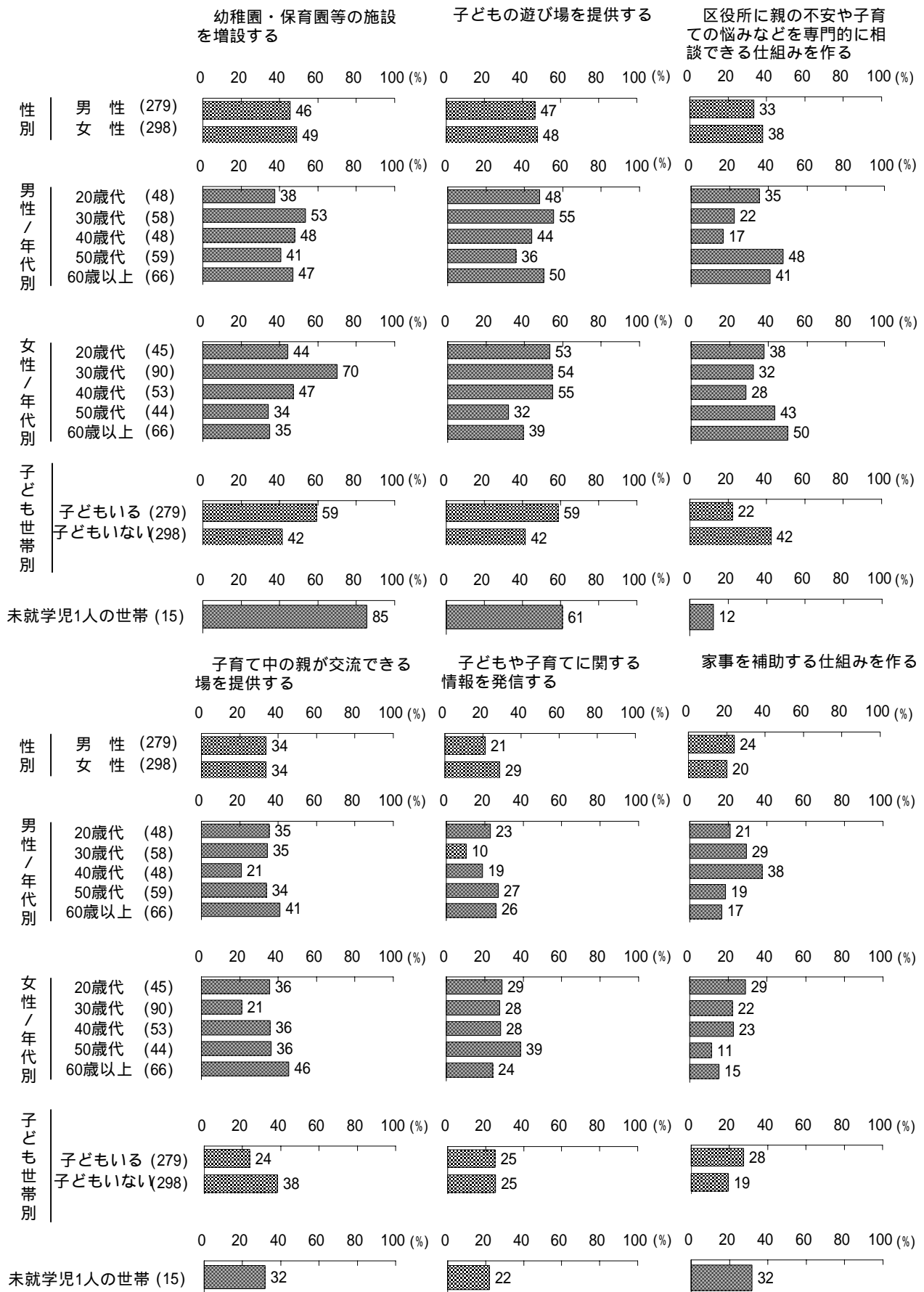
図 8 - 1



【全体 = 577】

子どもや子育ての支援については、「幼稚園・保育園等の施設を増設する」(47.3%)が最も高く、「子どもの遊び場を提供する」(47.1%)が僅差で続いている。以下、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みをつくる」(35.7%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(33.6%)、「子どもや子育てに関する情報を発信する」(25.1%)、「家事を補助する仕組みを作る」(22.0%)、「子どもや子育て関係の団体・サークルを支援する」(20.6%)の順になっている。

図 8 - 2 性別 / 性年代別 / 子ども世帯別 (上位6項目)

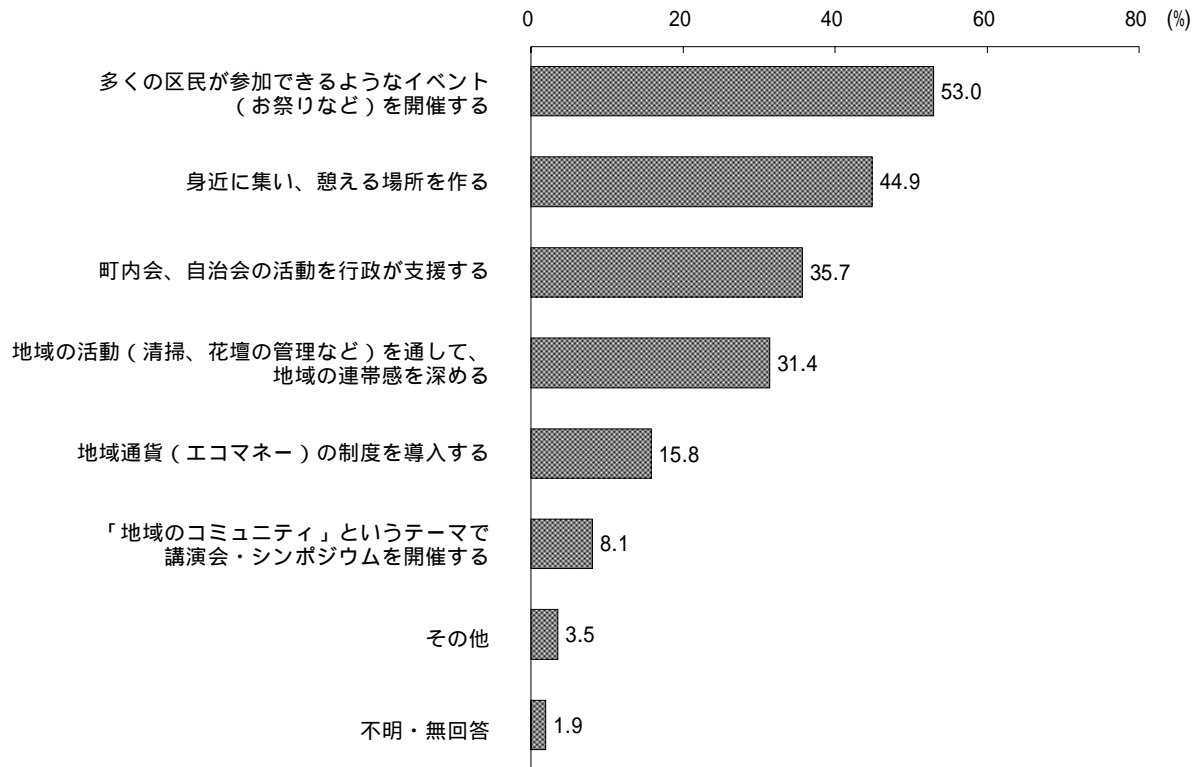


「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」、「子育て中の親が交流できる場を提供する」の子ども世帯別では、子どもがいる世帯より子どもがいない世帯の方が高い。

(9) 地域住民のつながりを深める手法

問9 地域の住民同士のつながりを深めるためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 9 - 1



【全体 = 577】

地域の住民同士のつながりを深めるための手法については、「多くの区民が参加できるようなイベント (お祭りなど) を開催する」(53.0%) が最も高く、次いで「身近に集い、憩える場所を作る」(44.9%)、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」(35.7%)と続いている。以下、「地域の活動 (清掃、花壇の管理など) を通して、地域の連帯感を深める」(31.4%)、「地域通貨 (エコマネー) の制度を導入する」(15.8%)、「「地域のコミュニティ」というテーマで講演会・シンポジウムを開催する」(8.1%)の順になっている。

図 9 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

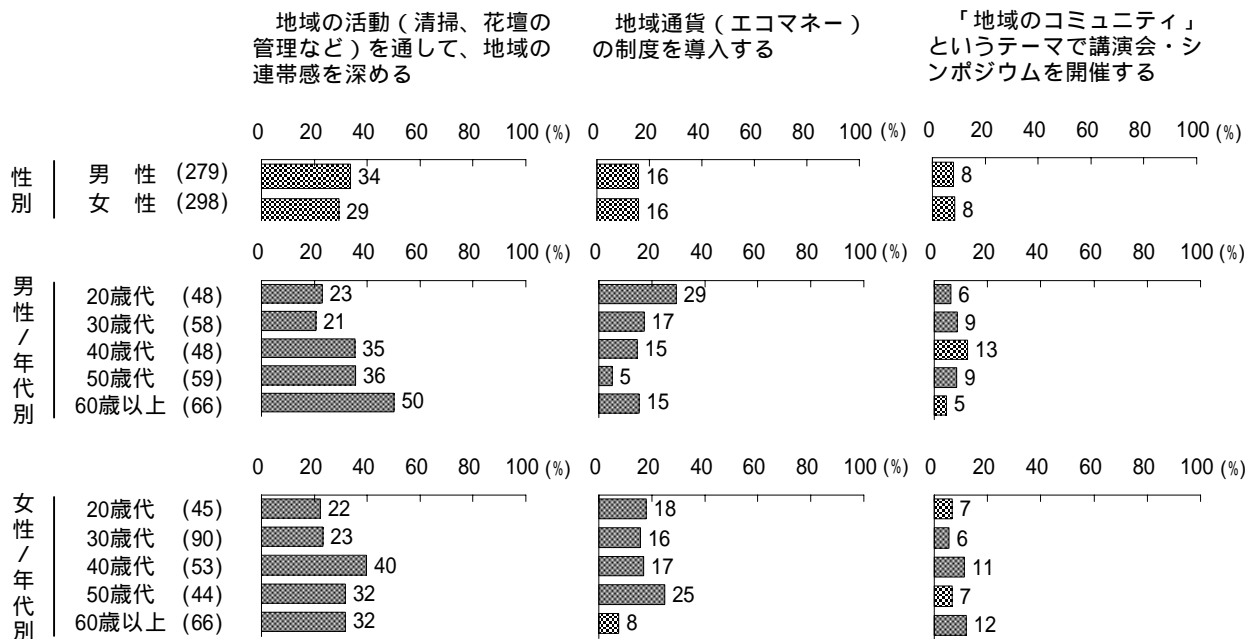
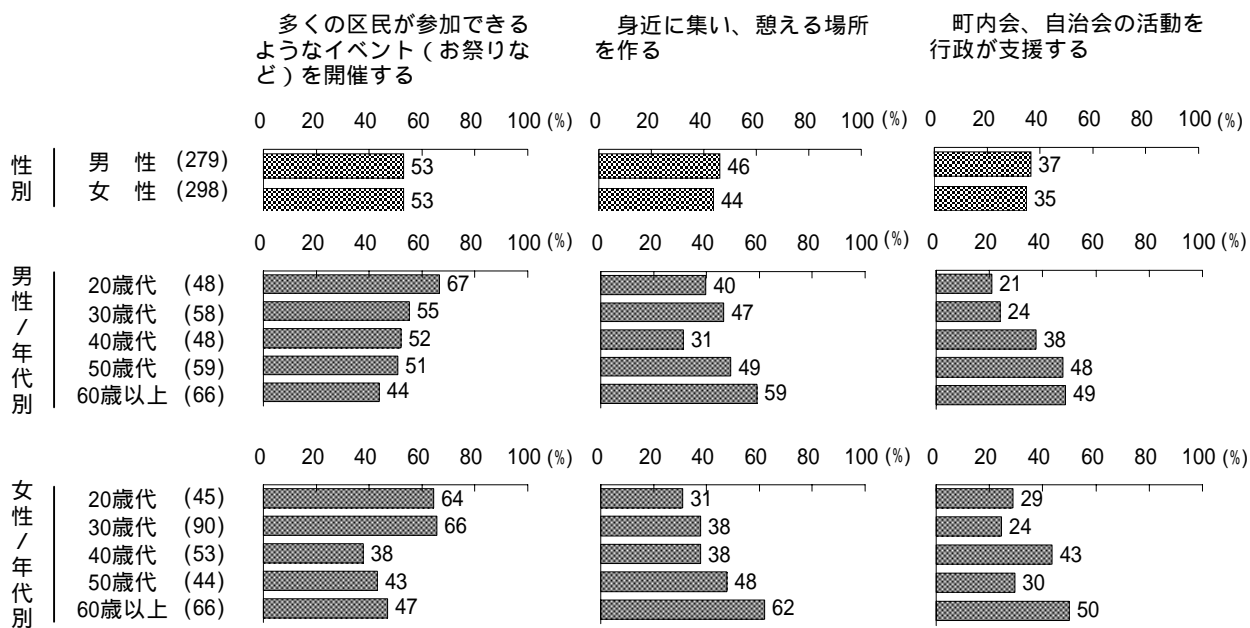
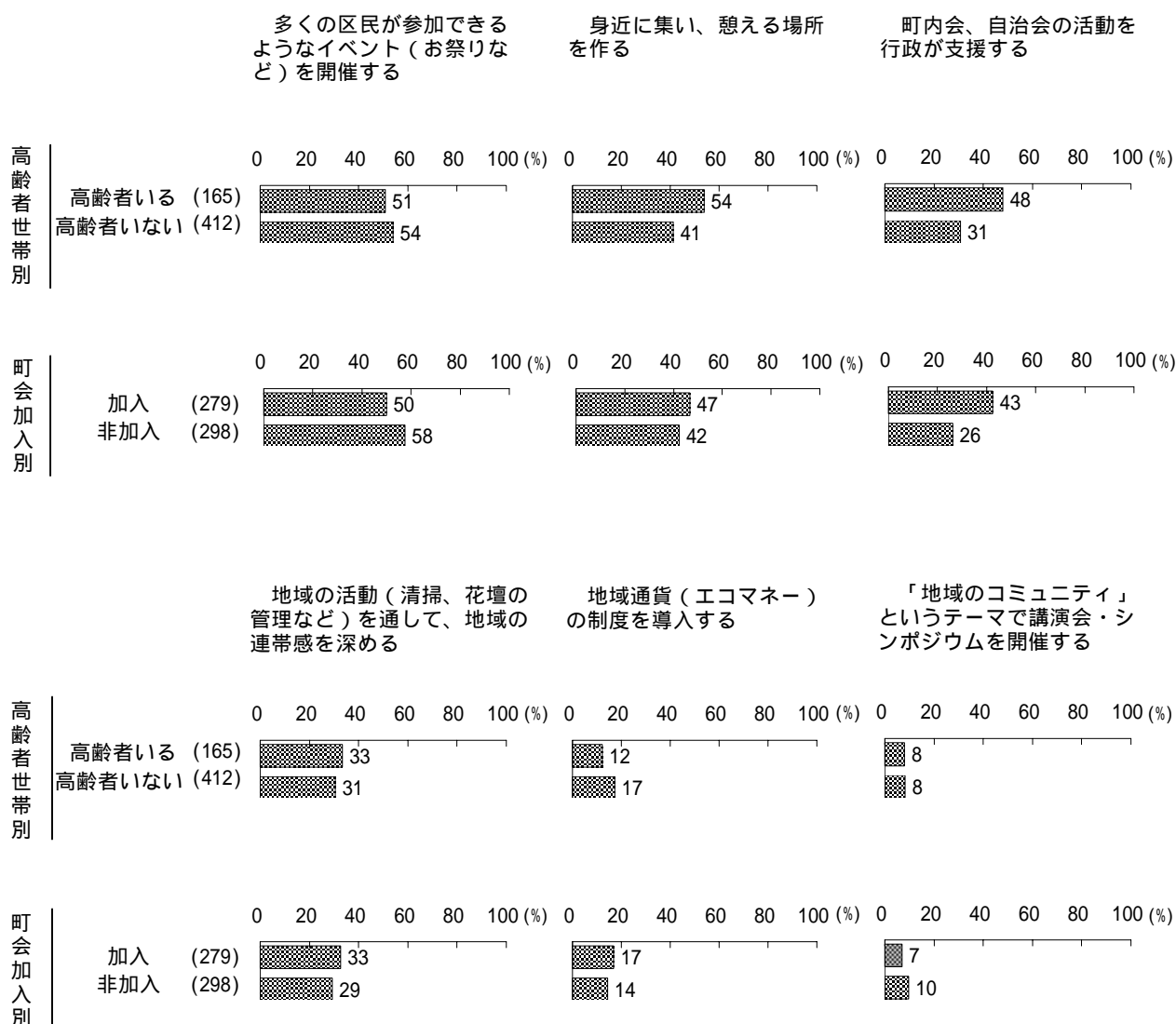


図 9 - 3 高齢者世帯別 / 町会加入別 (上位 6 項目)



「多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する」の性年代別をみると、男女ともに若年層の結果が高いのが目立っている。

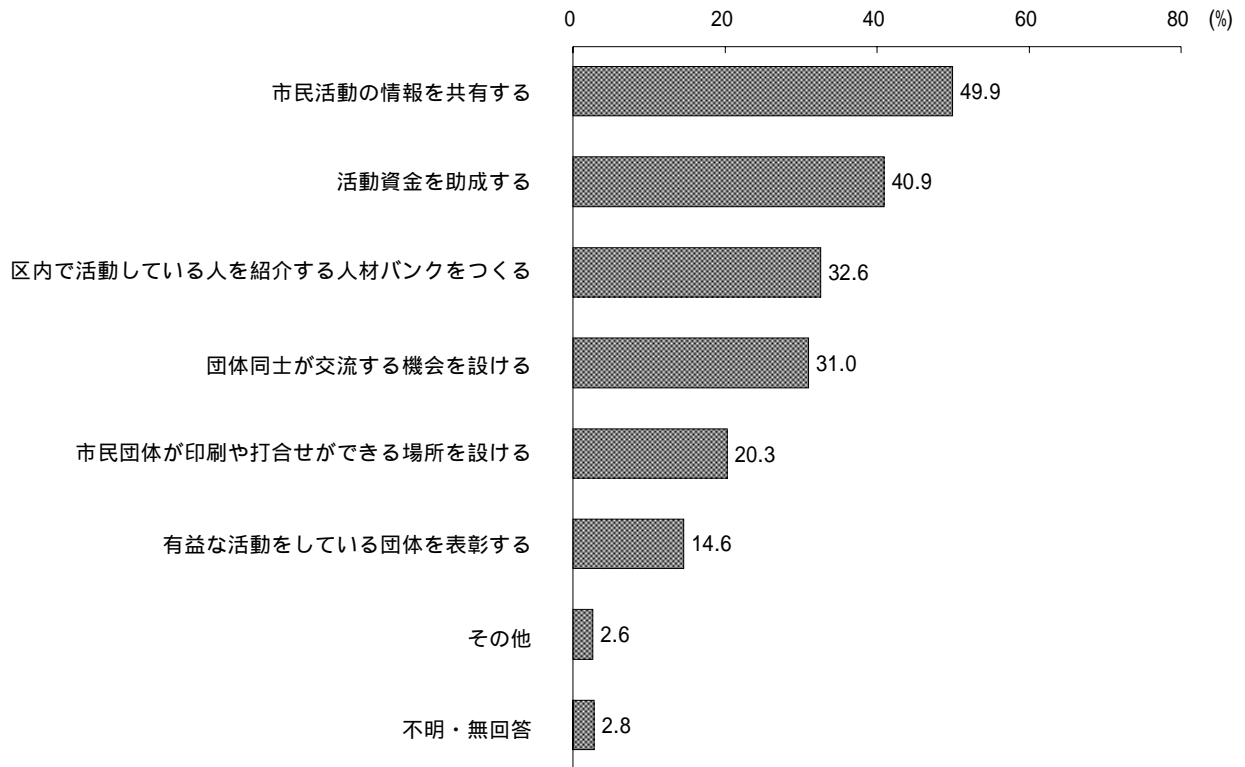
一方、「身近に集い、憩える場所を作る」、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」のそれぞれの性年代別をみると、男女ともに高年層になるほど高くなる。また、高齢者世帯別でも高齢者がいる世帯の方がいない世帯より高い。

「町内会、自治会の活動を行政が支援する」の町会加入別では、加入している人が43%、加入していない人が26%と17%の差になっている。

(10) 市民活動支援

問10 市民活動の支援としてはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 1 0 - 1



【全体 = 577】

市民活動の支援については、「市民活動の情報を共有する」(49.9%)が最も高く、次いで「活動資金を助成する」(40.9%)、「区内で活動している人を紹介する人材バンクをつくる」(32.6%)と続いている。以下、「団体同士が交流する機会を設ける」(31.0%)、「市民団体が印刷や打合せができる場所を設ける」(20.3%)、「有益な活動をしている団体を表彰する」(14.6%)の順になっている。

図 10 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

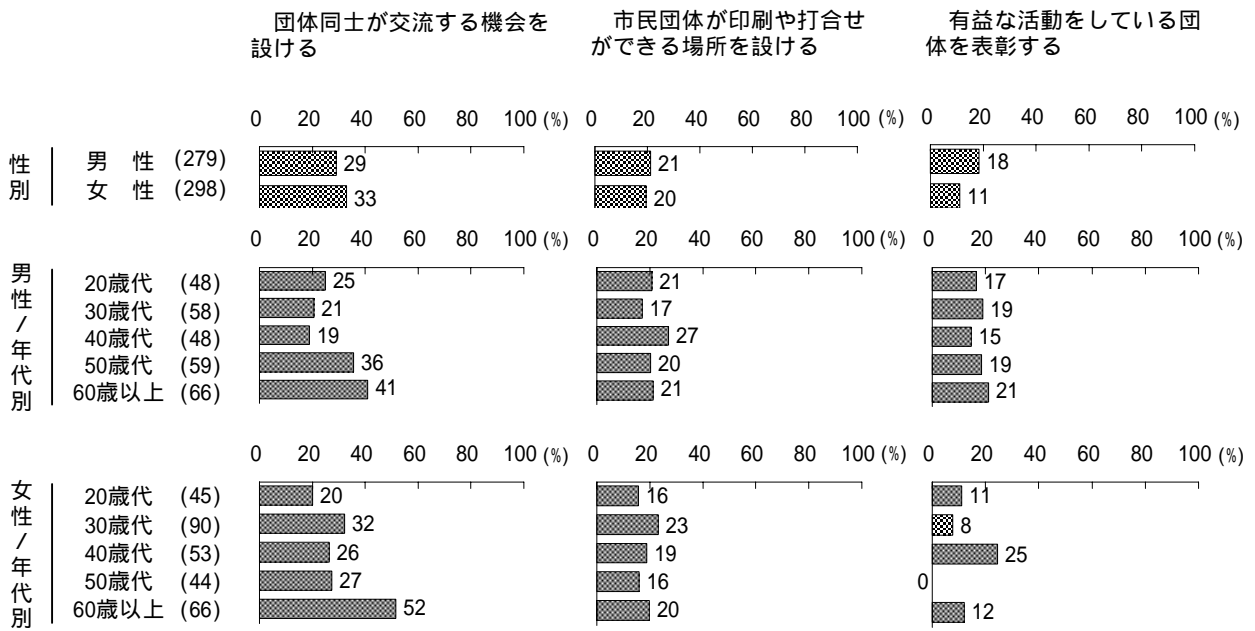
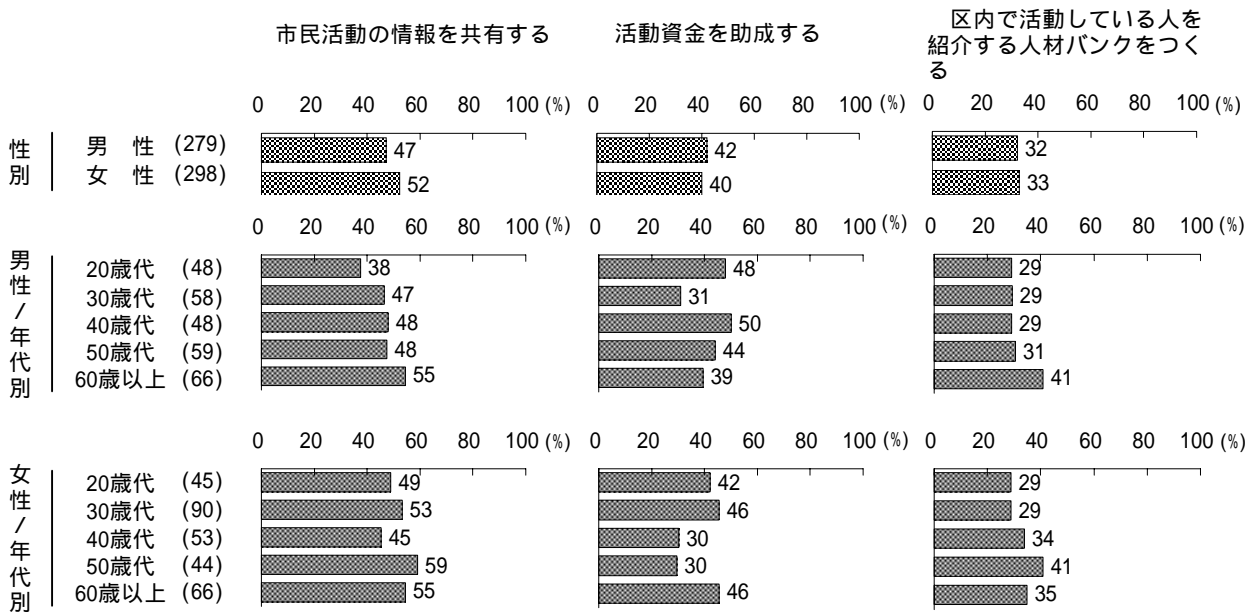
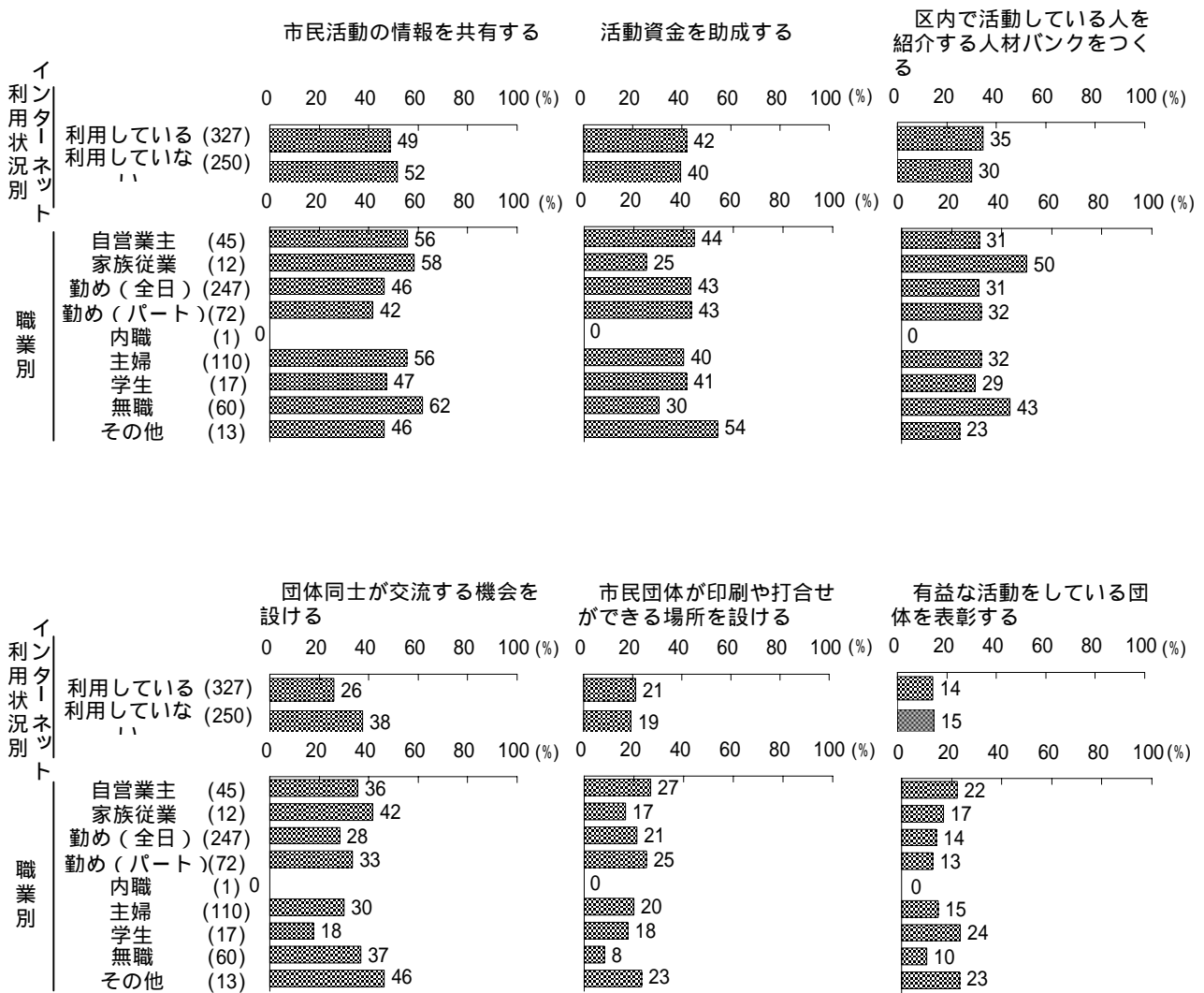


図 10 - 3 インターネット利用状況別 / 職業別 (上位6項目)

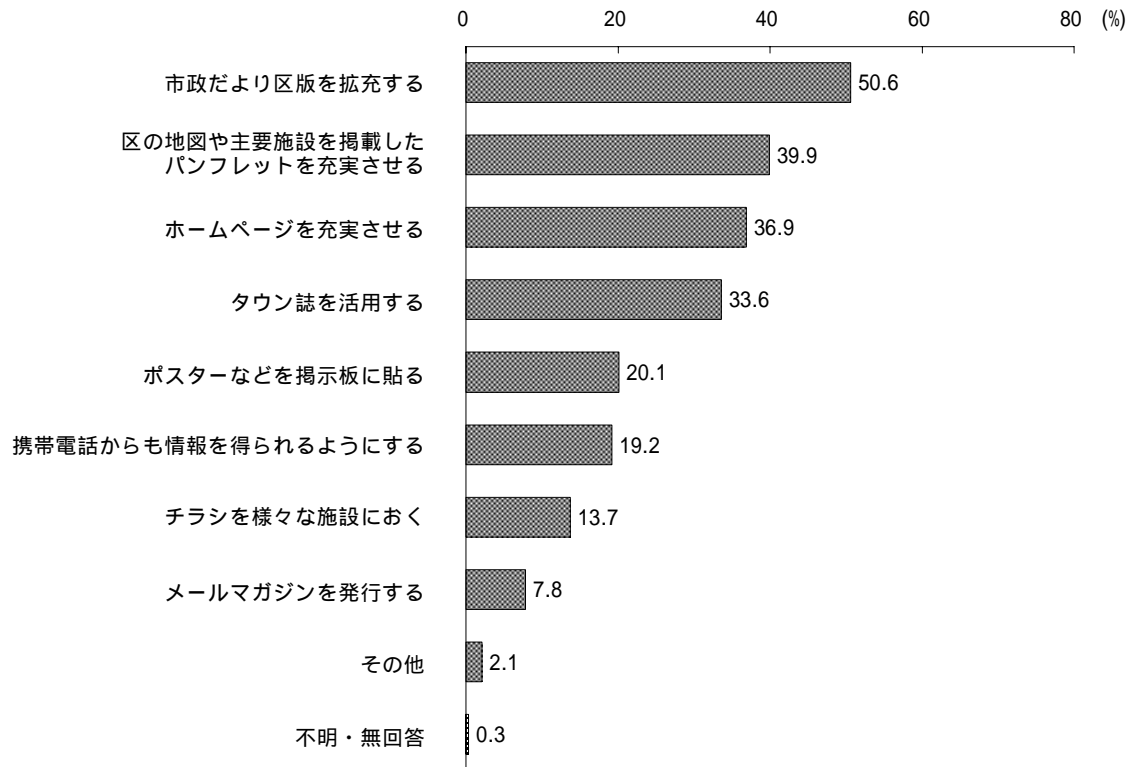


「団体同士が交流する機会を設ける」の性年代別で男女ともに60歳以上が高い。また、インターネット利用状況別でも利用している人が26%、利用していない人が38%と12%の差になっている。

(1 1) 区の情報提供

問11 区の情報を提供するためにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

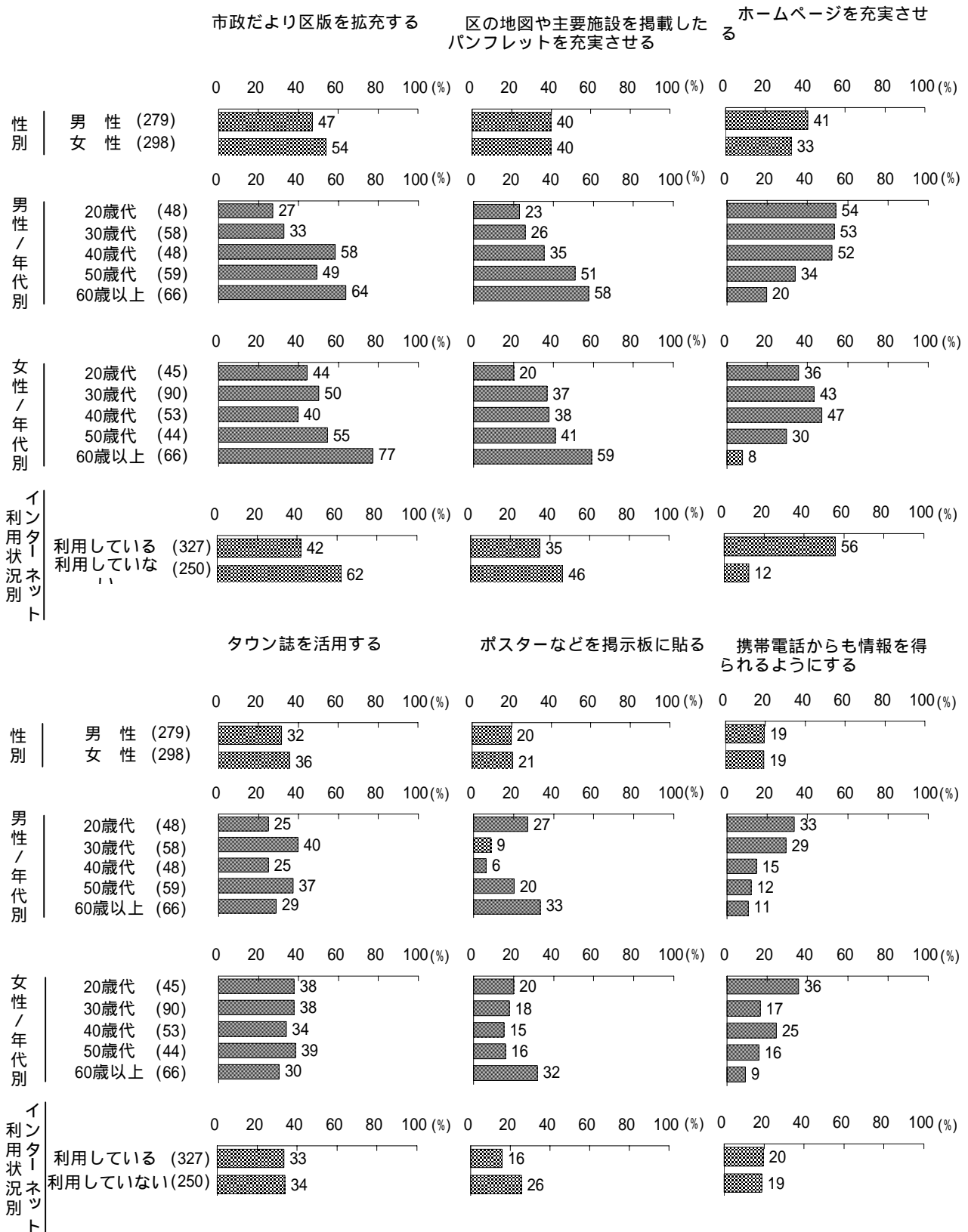
図 1 1 - 1



【全体 = 577】

区の情報の提供については、「市政だより区版を拡充する」(50.6%)が最も高く、次いで「区の地図や主要施設を掲載したパンフレットを充実させる」(39.9%)、「ホームページを充実させる」(36.9%)、「タウン誌を活用する」(33.6%)が上位を形成している。以下、「ポスターなどを掲示板に貼る」(20.1%)、「携帯電話からも情報を得られるようにする」(19.2%)、「チラシを様々な施設におく」(13.7%)、「メールマガジンを発行する」(7.8%)の順になっている。

図 11 - 2 性別 / 性年代別 / インターネット利用状況別 (上位6項目)



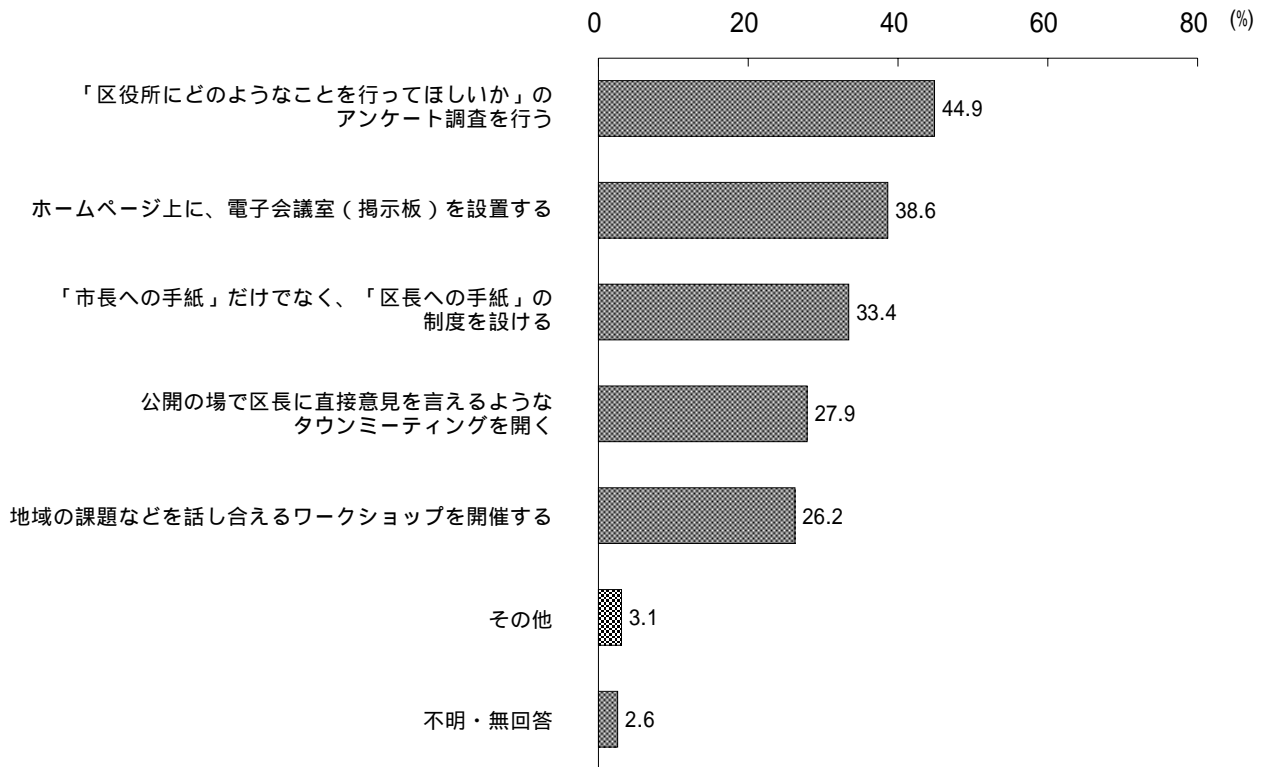
「市政だより区版を拡充する」の性年代別をみると、男女ともに60歳以上が高い。また、20歳代、30歳代の男女間で差がみられる。

「ホームページを充実させる」では、性年代別の男性の若年層と高年層の間に差がみられる。また、インターネット利用状況別でも利用している人が56%、利用していない人が12%と44%の差になっている。

(1 2) 区民の要望収集

問12 区民の要望を収集するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

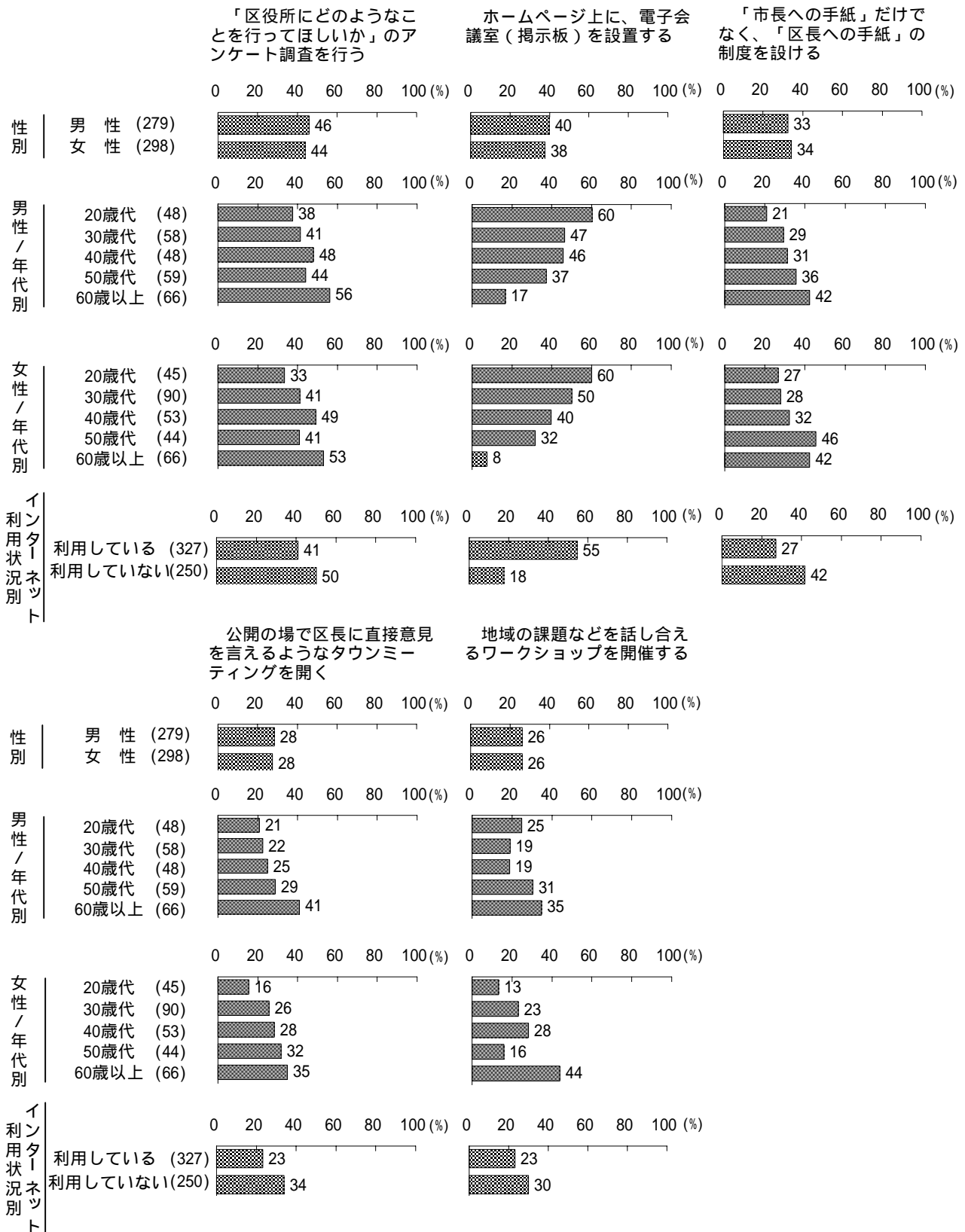
図 1 2 - 1



【全体 = 577】

区民の要望の収集については、「区役所にどのようなことを行ってほしいか」のアンケート調査を行う(44.9%)が最も高く、次いで「ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する」(38.6%)、「市長への手紙」だけでなく、「区長への手紙」の制度を設ける(33.4%)と続いている。以下、「公共の場で区長に直接意見を言えるようなタウンミーティングを開く」(27.9%)、「地域の課題などを話し合えるワークショップを開催する」(26.2%)の順になっている。

図 12 - 2 性別 / 性年代別 / インターネット利用状況 (上位5項目)



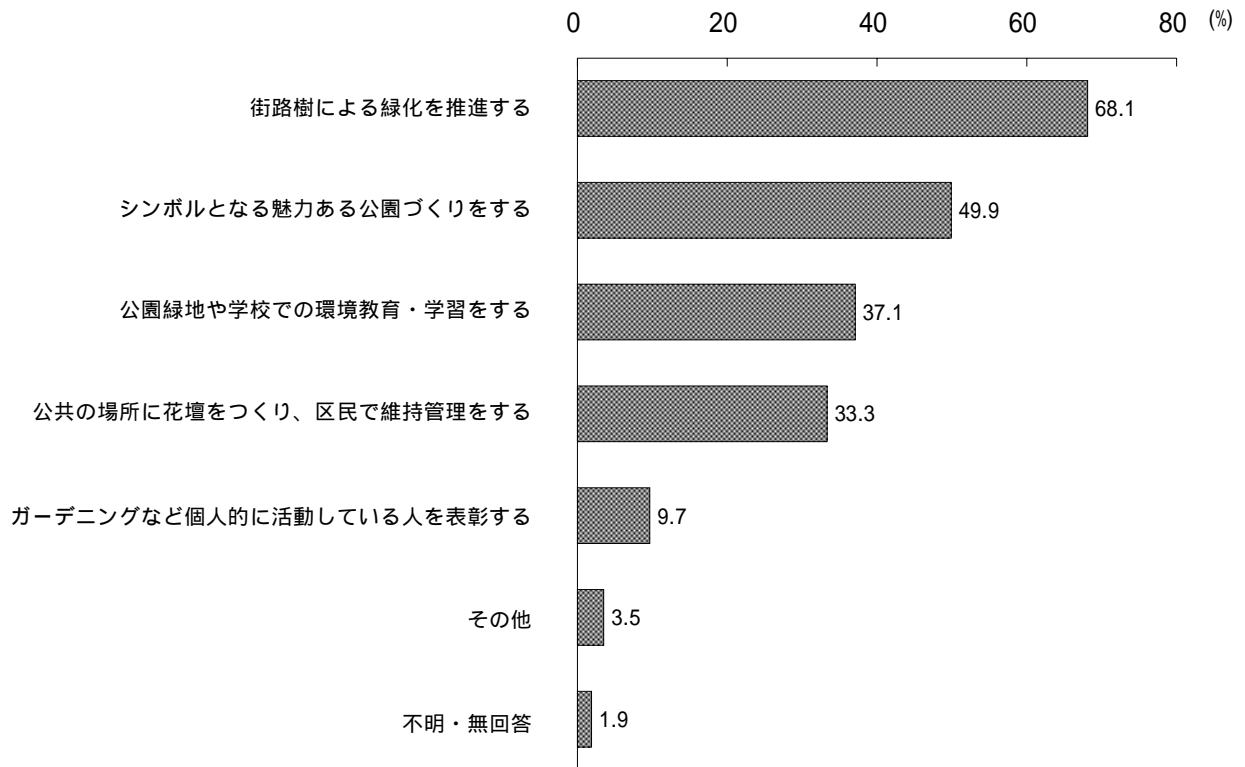
「ホームページ上に、電子会議室(掲示板)を設置する」の性年代別をみると、男女ともに若年層ほど高い。また、インターネット利用状況別においても使用している人が55%、利用していない人が18%と37%の差になっている。

その他の項目は、性年代別で高年層の方が高い。

(13) 花と緑のまちづくり推進

問13 花と緑のまちづくりを推進していくためには、どのようにしたらよいでしょうか。(3つまで)

図 13 - 1



【全体 = 577】

花と緑のまちづくりの推進については、「街路樹による緑化を推進する」(68.1%)が最も高く、やや差があって「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」(49.9%)、「公園緑地や学校での環境教育・学習をする」(37.1%)、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」(33.3%)と続いている。「ガーデニングなど個人的に活動している人を表彰する」(9.7%)は他の手法と比較すると低い結果となった。

図 1 3 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

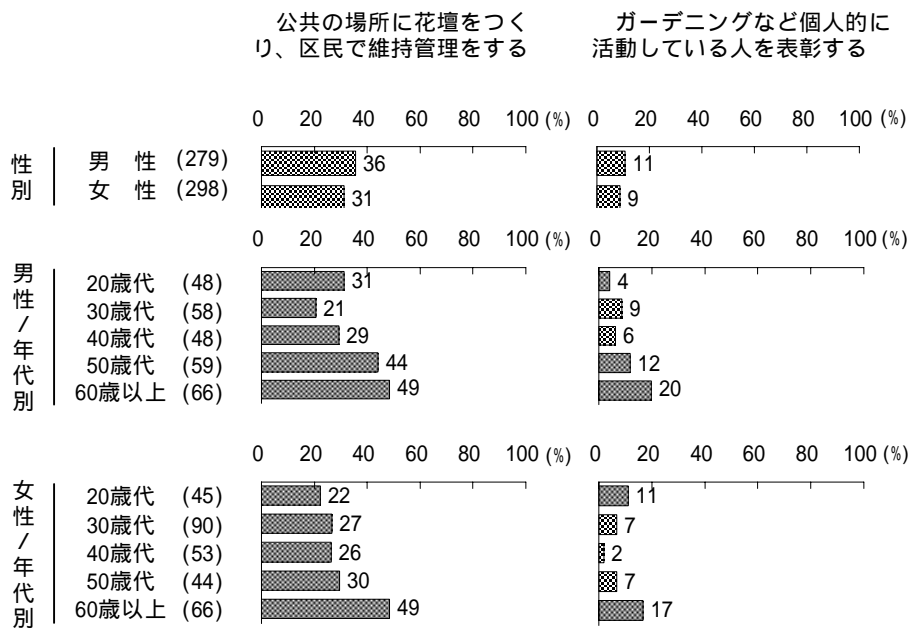
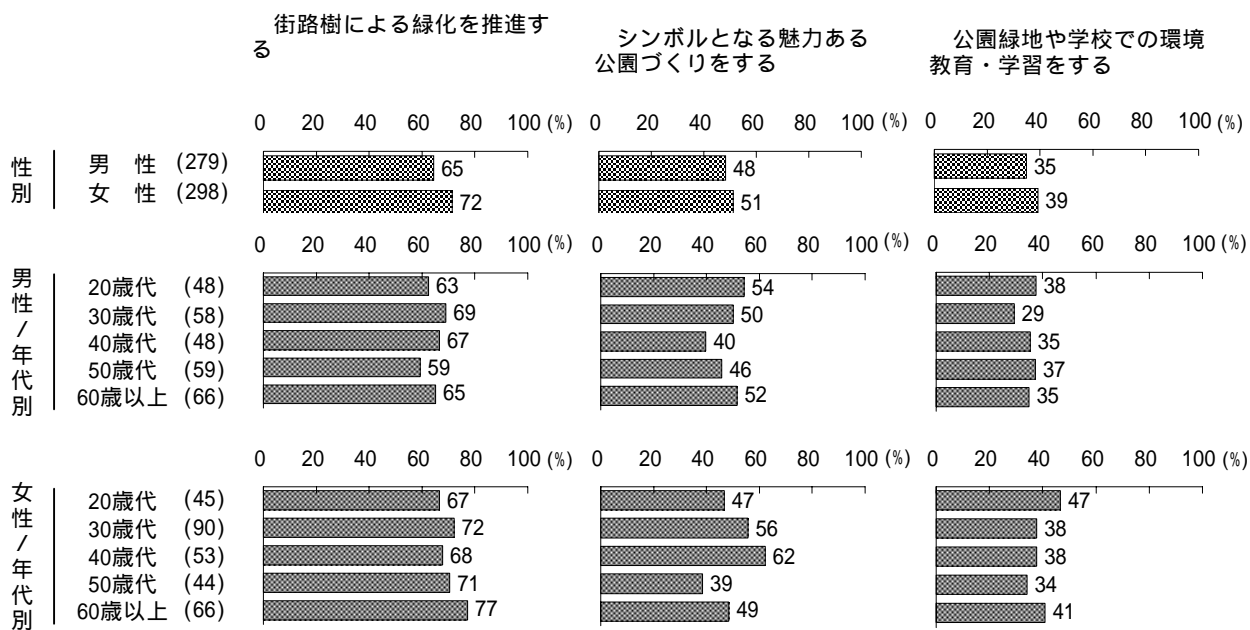
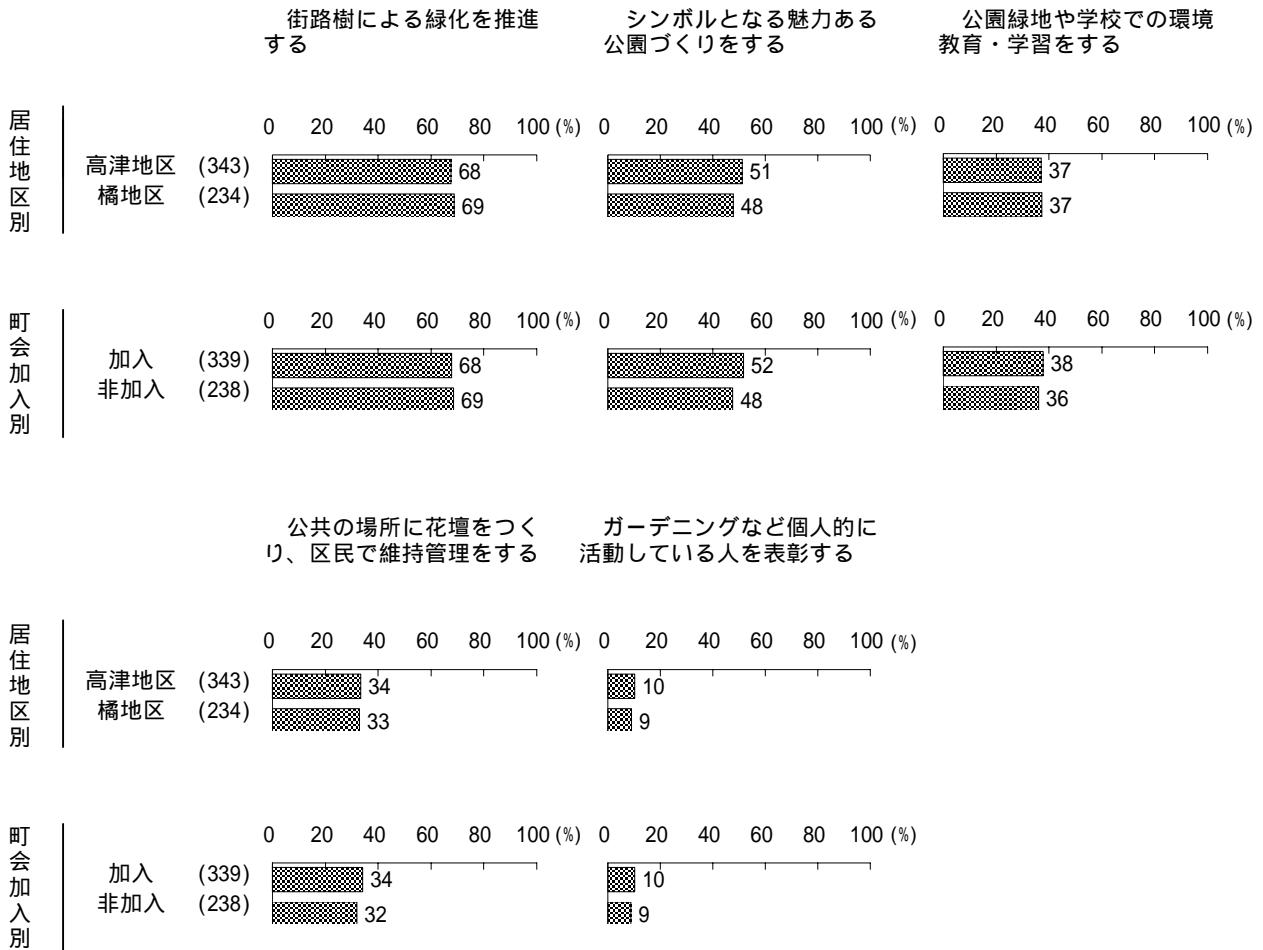


図 13 - 3 居住地域別 / 町会加入別 (上位 5 項目)



「街路樹による緑化を推進する」の性年代別をみると、男女ともに年代による差がほとんどみられないことが特徴的である。

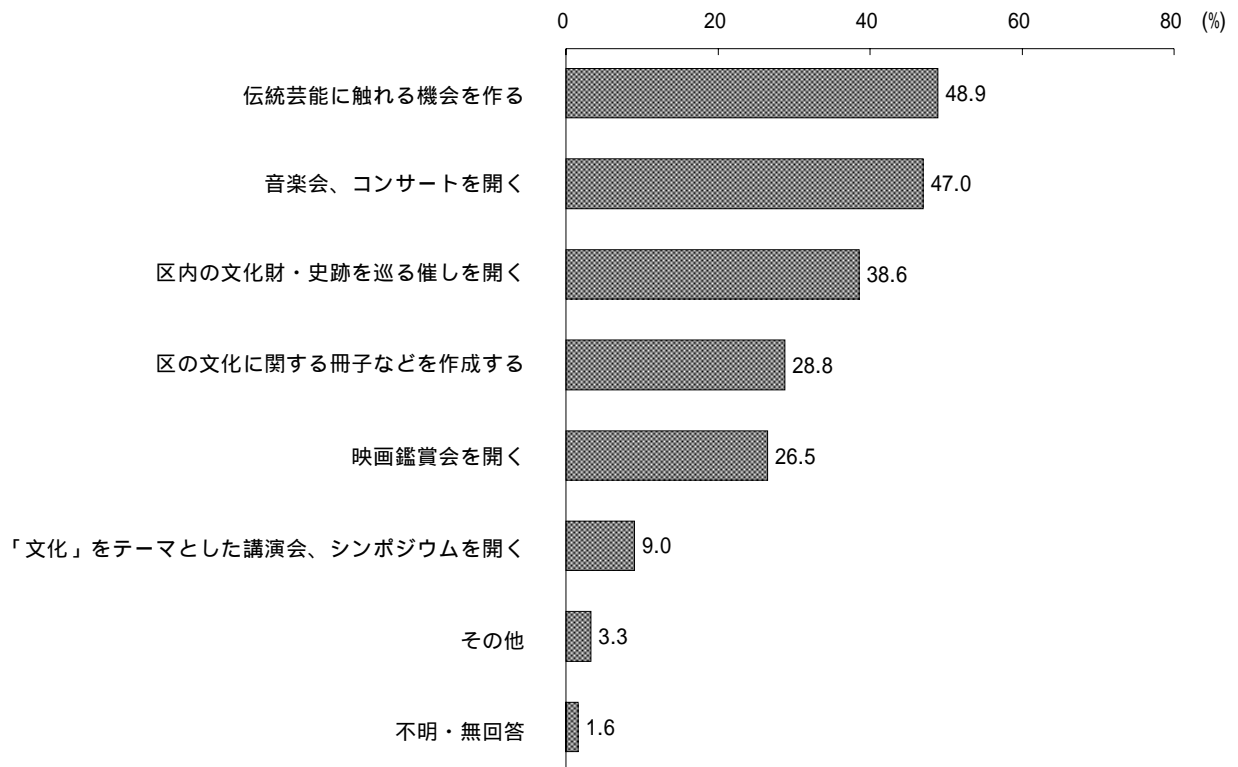
「シンボルとなる魅力ある公園づくりをする」では、性年代別で女性の40歳代が62%と最も高い。

また、「公共の場所に花壇をつくり、区民で維持管理をする」では、性年代別で男性、女性とも高年齢になるほど高い。

(14) 区の文化の振興

問14 区の文化を振興するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 14 - 1



【全体 = 577】

区の文化の振興については、「伝統芸能に触れる機会を作る」(48.9%)、「音楽会、コンサートを開く」(47.0%)が上位を形成している。以下、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」(38.6%)、「区の文化に関する冊子などを作成する」(28.8%)、「映画鑑賞会を開く」(26.5%)と続いており、「文化」をテーマとした講演会、シンポジウムを開く」(9.0%)は他の手法と比較すると低い結果となった。

図 1 4 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

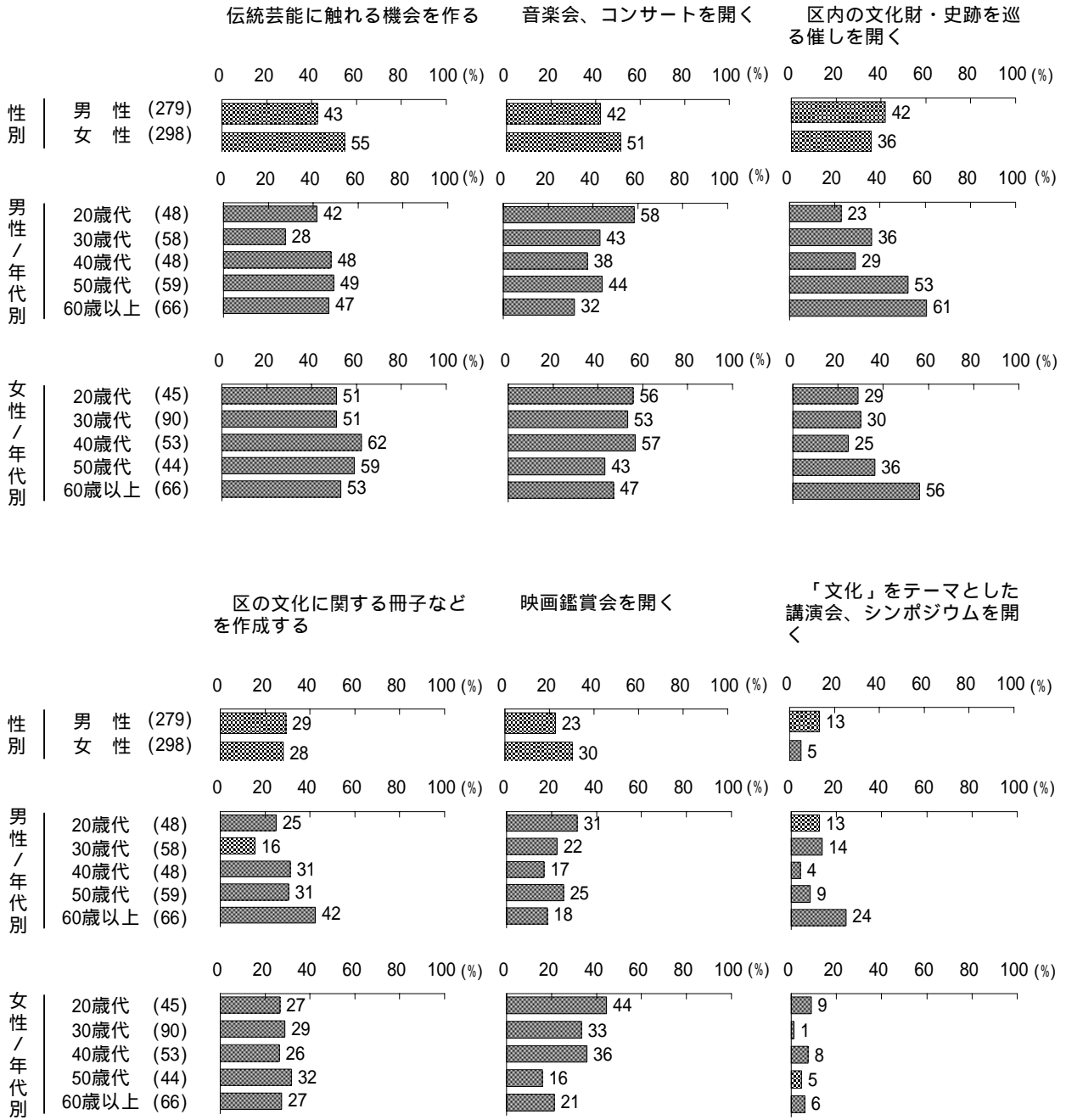
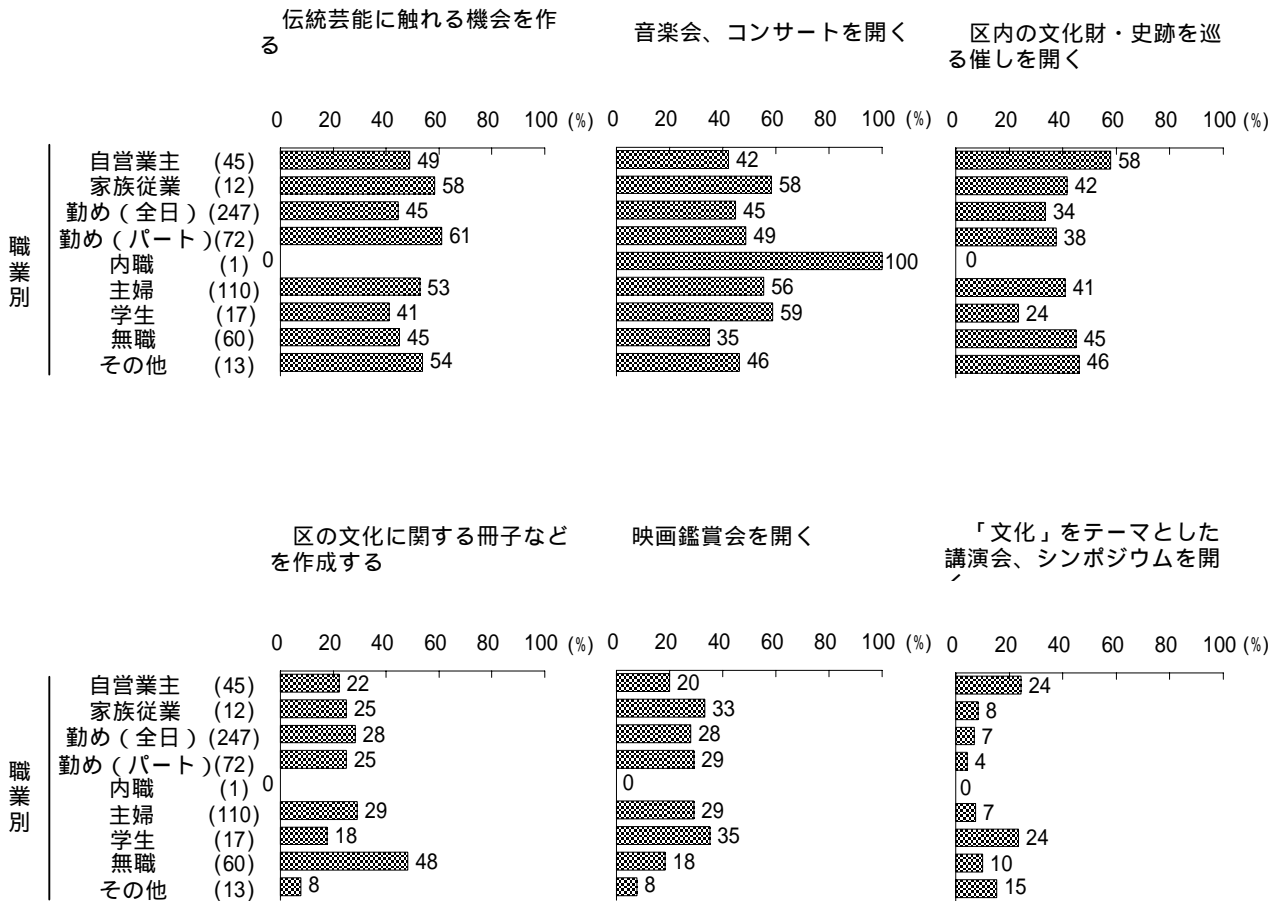


図 1 4 - 3 職 業 別 (上 位 6 項 目)



「伝統芸能に触れる機会を作る」の性別は、男性43%、女性55%と12%の差になっている。性年代別では、男性30歳代だけが28%と低い。

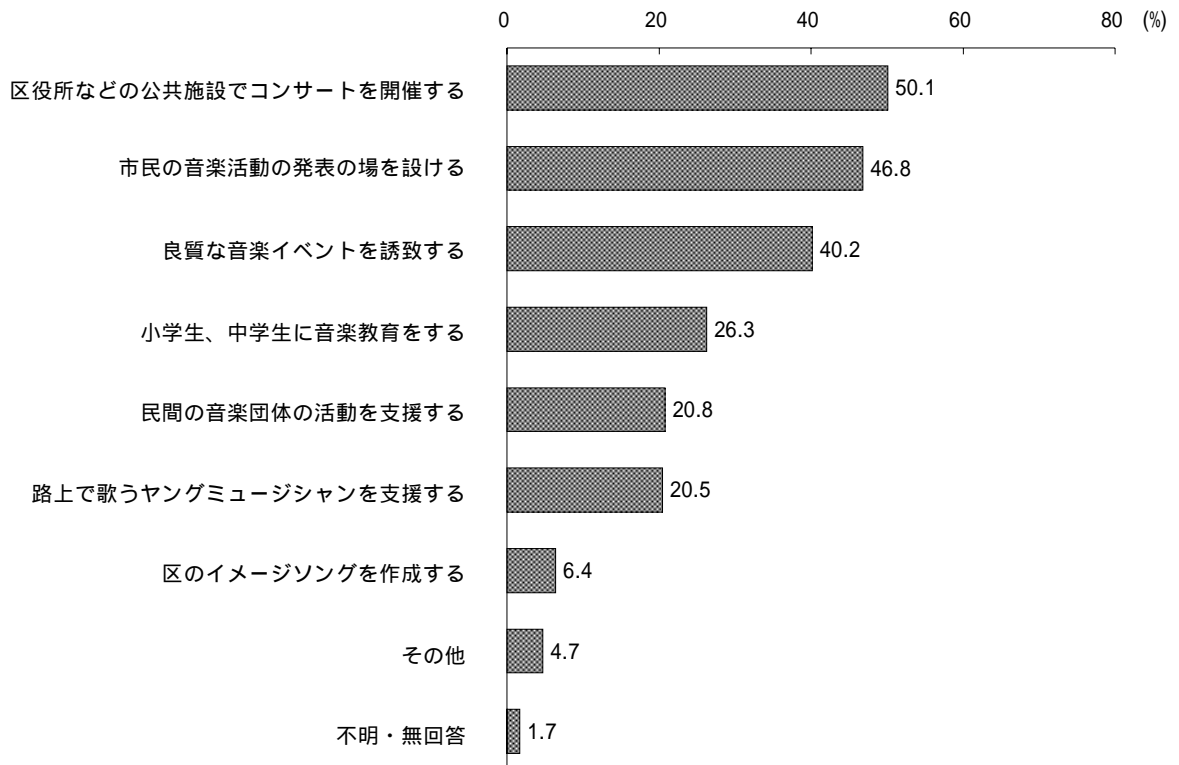
また、「音楽会、コンサートを開く」でも、性別で男性42%、女性51%と9%の差になっている。性年代別でみると、男性は年代が上がるほど低い。

一方、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」では性年代別で男性、女性とも、高年層になるほど高くなっている。

(1 5) 「音楽のまち」推進

問15 高津区において「音楽のまち」を推進するためには、どのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 1 5 - 1



【全体 = 577】

高津区においての「音楽のまち」推進については、「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」(50.1%)、「市民の音楽活動の発表の場を設ける」(46.8%)、「良質な音楽イベントを誘致する」(40.2%)が上位を形成している。以下、「小学生、中学生に音楽教育をする」(26.3%)、「民間の音楽団体の活動を支援する」(20.8%)、「路上で歌うヤングミュージシャンを支援する」(20.5%)と続いており、「区のイメージソングを作成する」(6.4%)は他の手法と比較すると低い結果となった。

図 1 5 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

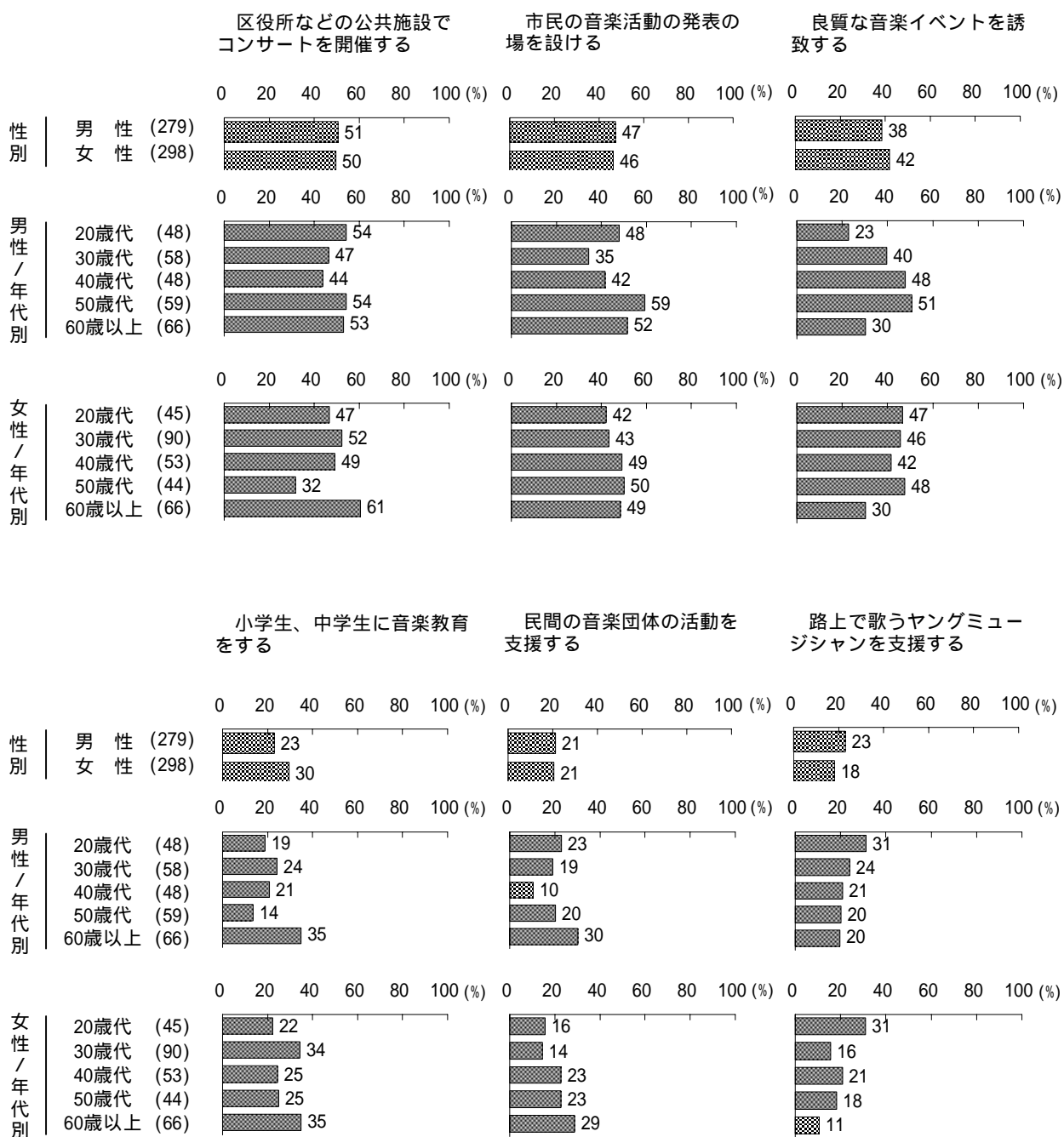
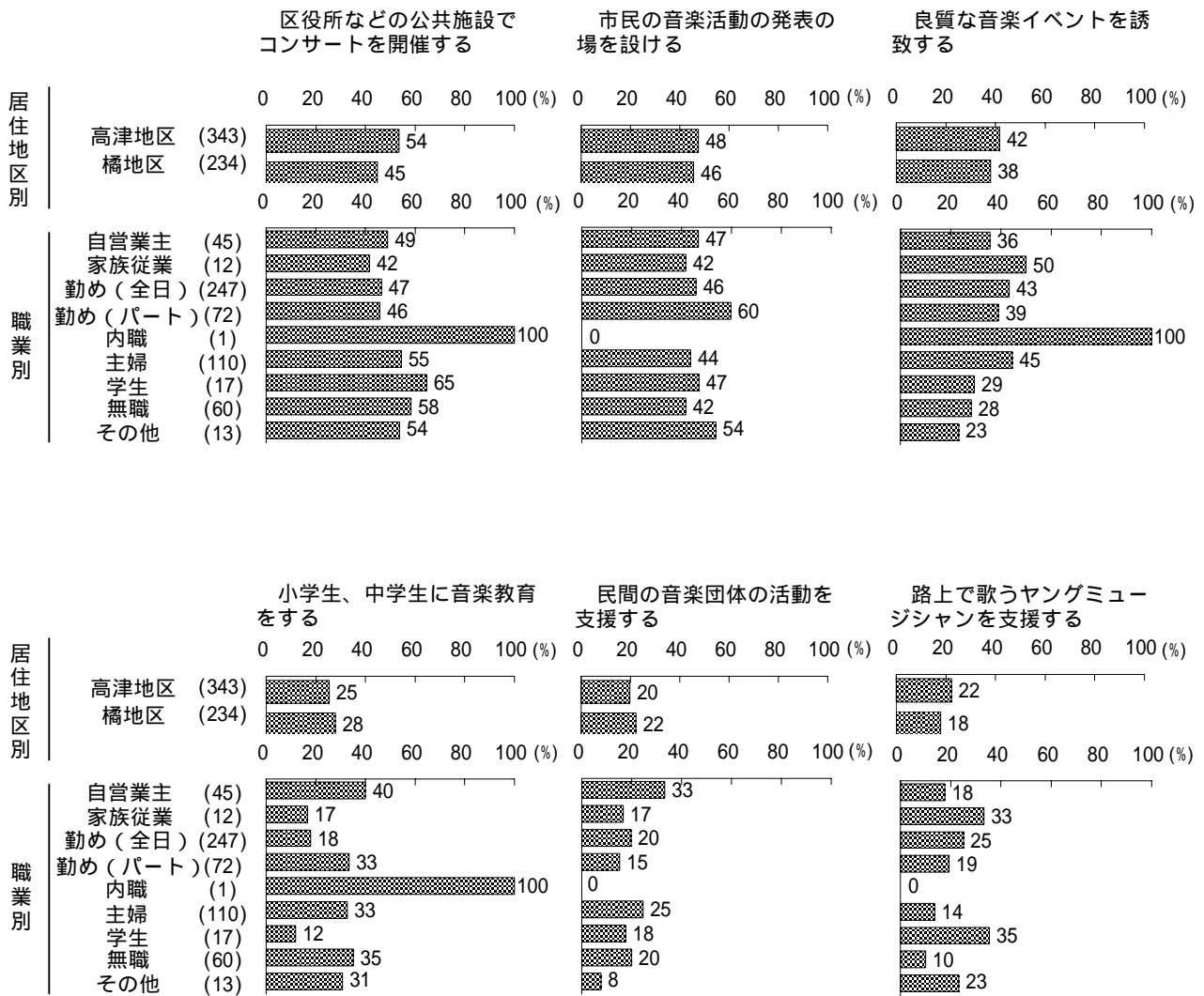


図 15 - 3 居住地区別 / 職業別 (上位6項目)



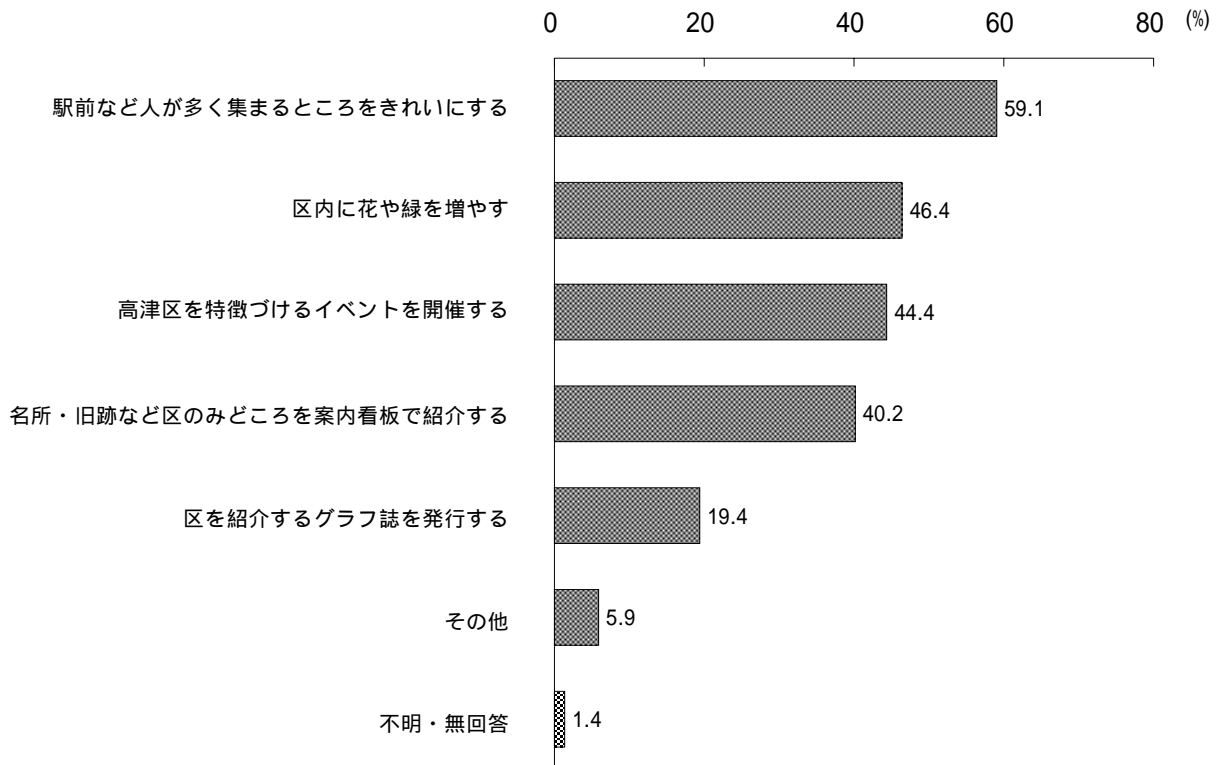
「区役所などの公共施設でコンサートを開催する」の性年代別で、女性50歳代が若年層より極端に低くなっているが、女性60歳以上は若年層より高い。また、居住地区別で高津地区が54%、橘地区が45%と9%の差になっている。

「良質な音楽イベントを誘致する」では、性年代別で男性20歳代と男女ともに60歳以上が低い。

(16) 区のイメージアップ

問16 区のイメージアップを図り、区民が地域に愛着をもつようにするためにはどのような手法がよいでしょうか。
(3つまで)

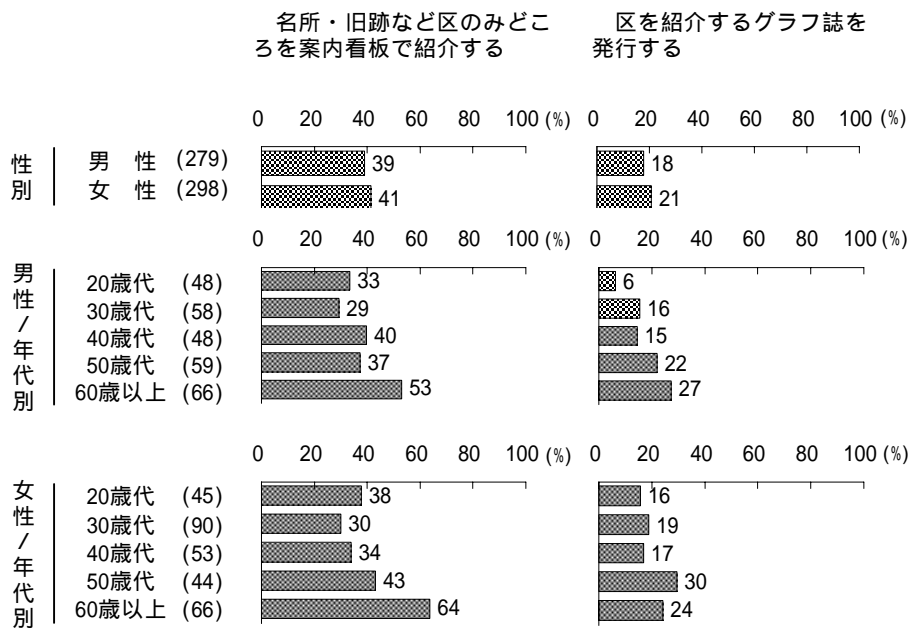
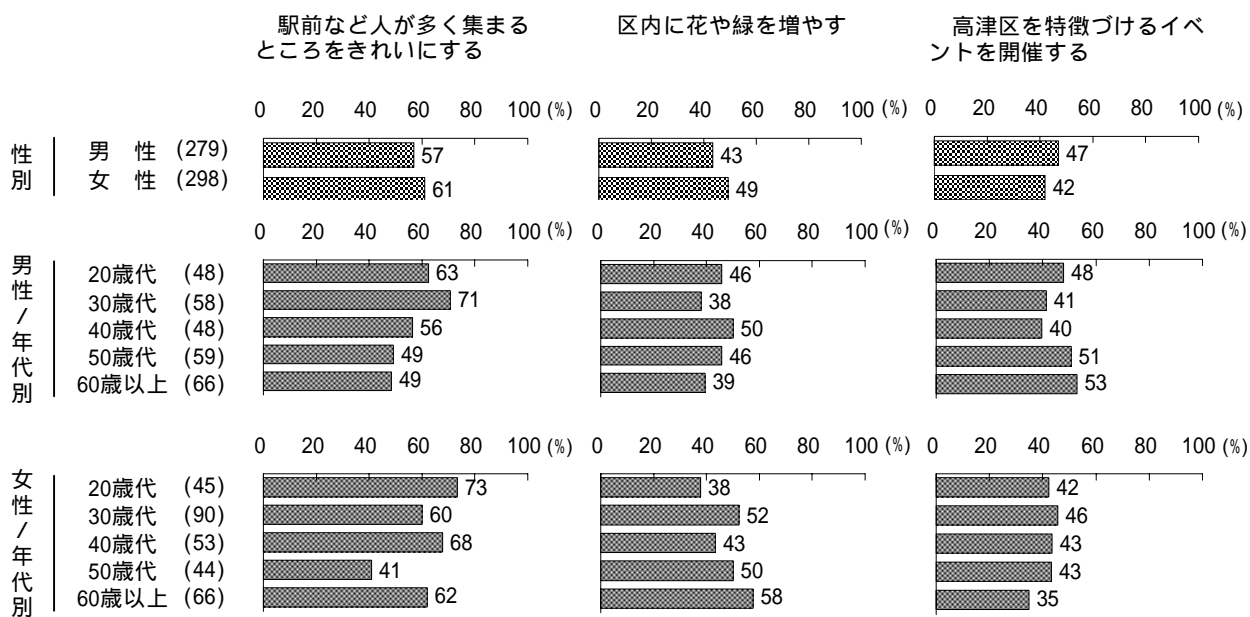
図 16 - 1



【全体 = 577】

区のイメージアップ手法については、「駅前など人が多く集まるところをきれいにする」(59.1%)が最も高く、次いで「区内に花や緑を増やす」(46.4%)、「高津区を特徴づけるイベントを開催する」(44.4%)、「名所や旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」(40.2%)と続いている。「区を紹介するグラフ誌を発行する」(19.4%)は他の手法と比較すると低い結果となった。

図 1 6 - 2 性別 / 性年代別 (上位 5 項目)

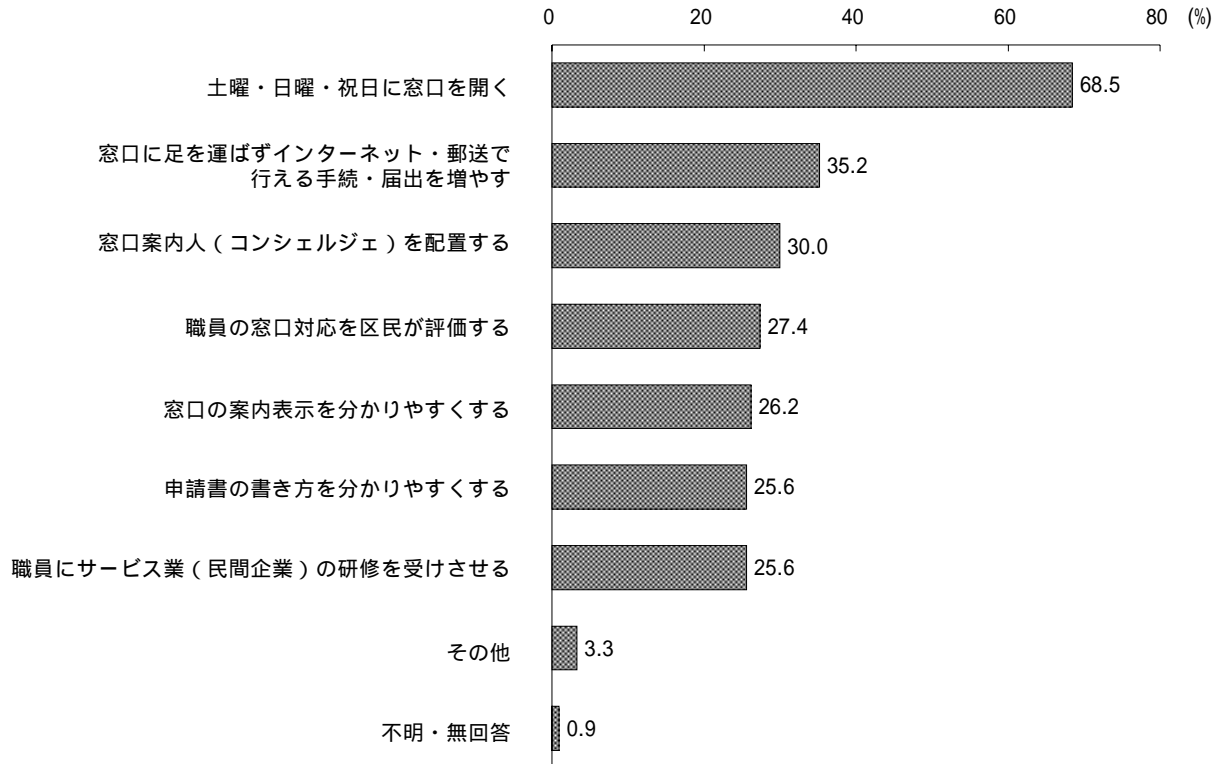


「駅前など人が多く集まる場所をきれいにする」の性年代別をみると男女とも若年層の方が高い。
「名所・旧跡など区のみどころを案内看板で紹介する」の性年代別では、男女ともに60歳以上が高い。

(17) 区役所の窓口サービス向上

問17 区役所の窓口サービスを向上させるにはどのような手法がよいでしょうか。(3つまで)

図 17 - 1



【全体 = 577】

区役所の窓口サービス向上については、「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」(68.5%)が他の手法と比較すると抜きん出て高い。以下、「窓口で足を運ばずに、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」(35.2%)、「窓口案内人(コンシェルジェ)を配置する」(30.0%)、「職員の窓口対応を区民が評価する」(27.4%)、「窓口の案内表示を分かりやすくする」(26.2%)、「申請書の書き方を分かりやすくする」、「職員にサービス業(民間企業)の研修を受けさせる」(ともに25.6%)の順になっている。

図 17 - 2 性別 / 性年代別 (上位 6 項目)

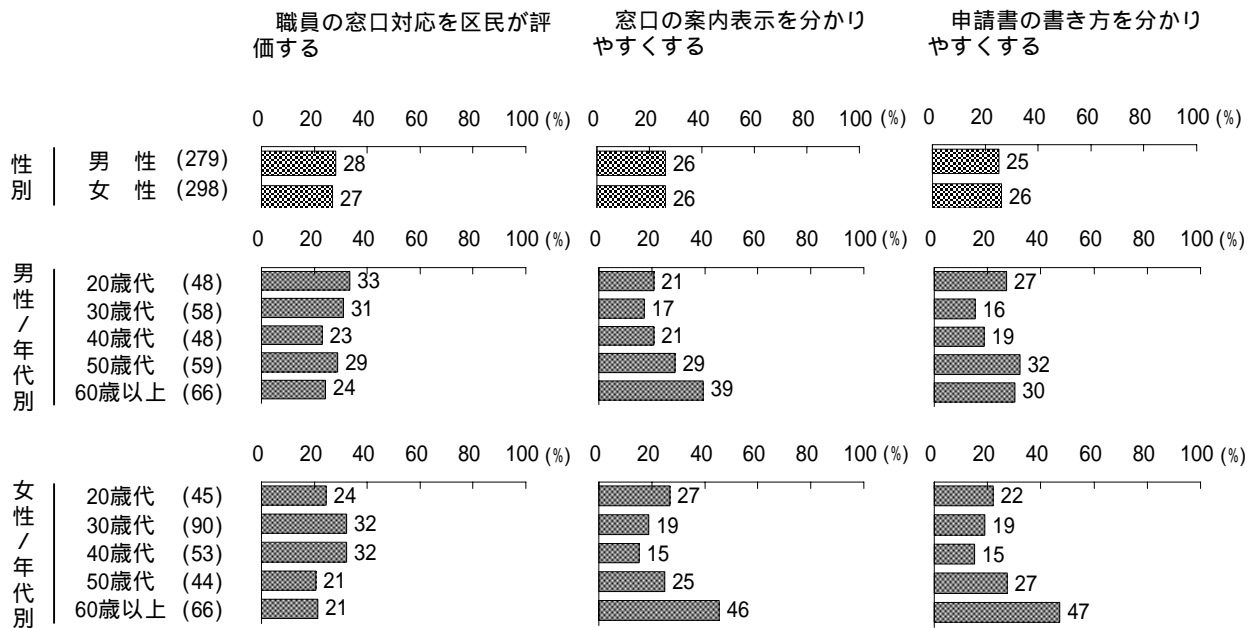
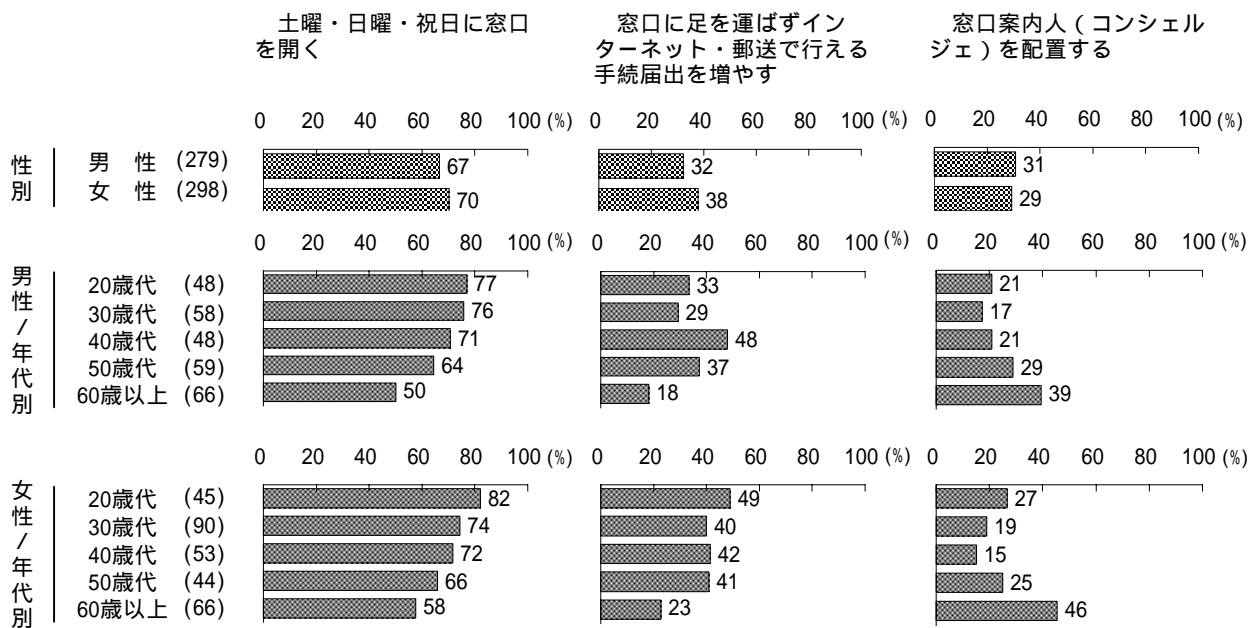
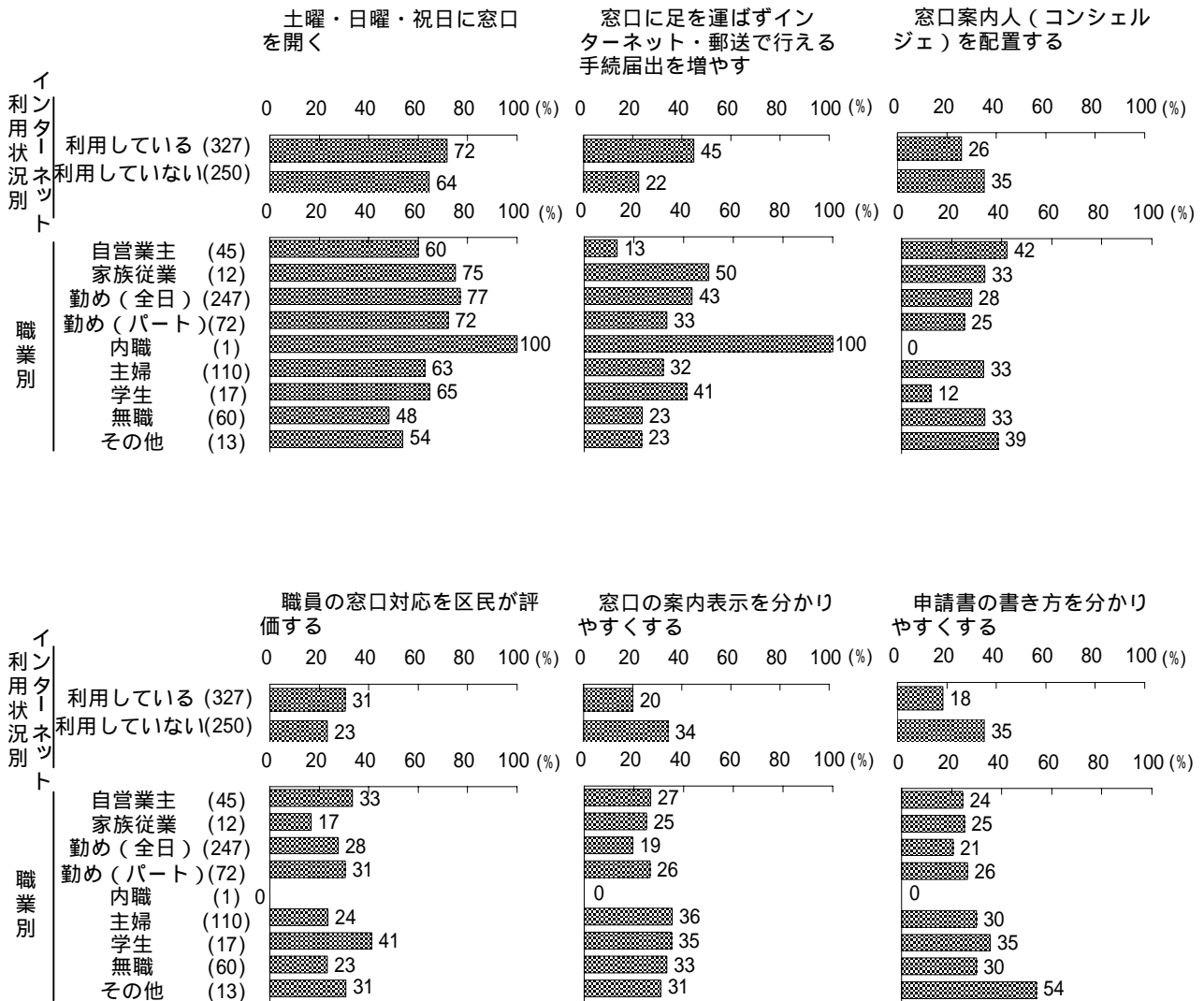


図 17 - 3 インターネット利用状況別 / 職業別 (上位6項目)



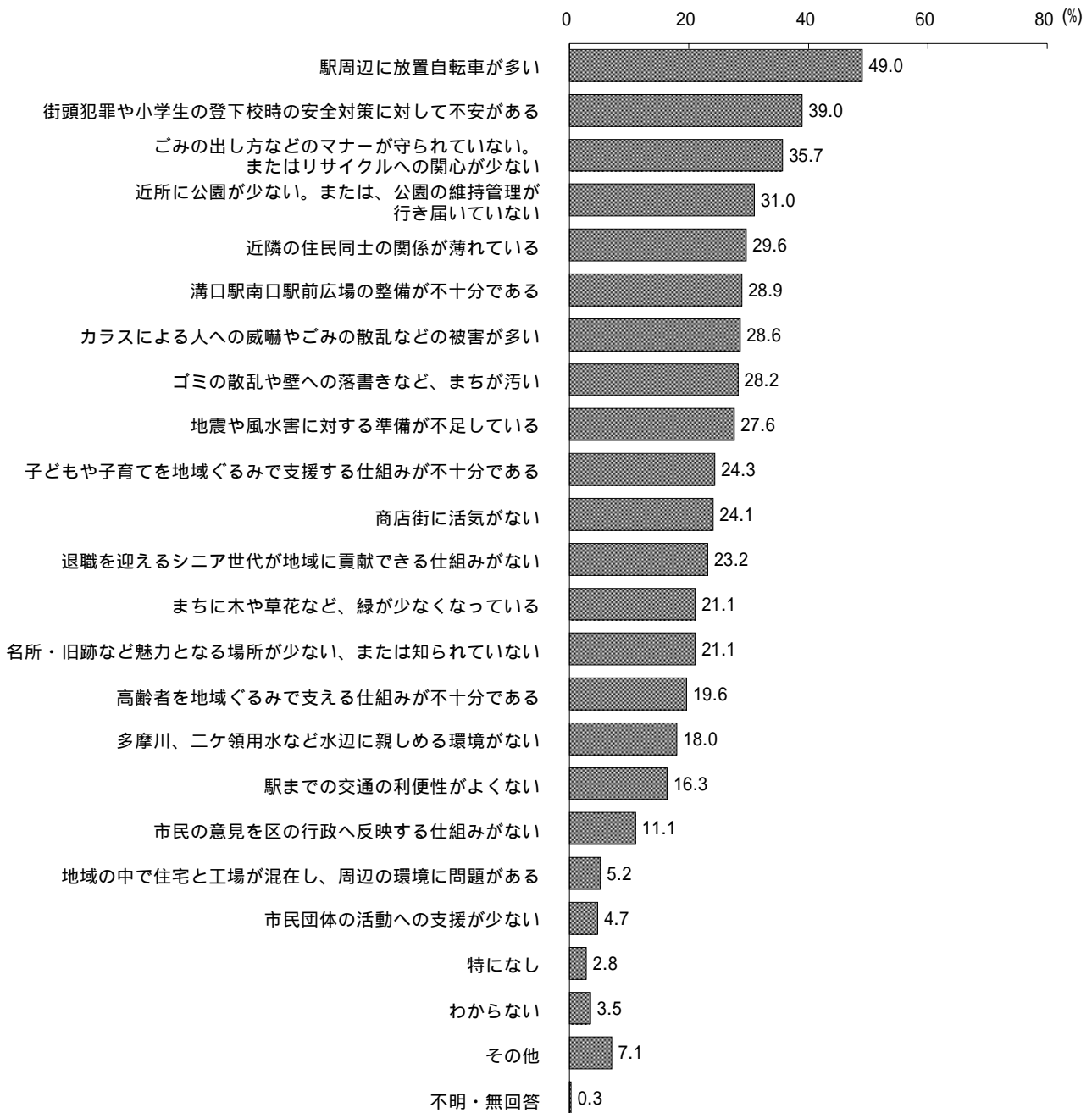
「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」は若年層が高い。また、「窓口案内人(コンシェルジェ)を配置する」、「窓口の案内表示を分かりやすくする」、「申請書の書き方を分かりやすくする」では、60歳以上が高い。

インターネット利用状況別では、「窓口で足を運ばずインターネット・郵送で行える手続届出を増やす」が、利用している人が45%、利用していない人が22%と23%の差になっている。一方、「窓口の案内表示を分かりやすくする」、「申請書の書き方を分かりやすくする」では使用していない人の方が高い。

(1 8) まちの課題・問題点

問18 あなたのまちの課題・問題点と思うものは何ですか。(いくつでも)

図 1 8 - 1



【全体 = 577】

まちの課題・問題点については、「駅周辺に放置自転車がが多い」(49.0%)が最も高く、次いで「街頭犯罪や小学生の登下校時の安全対策に対して不安がある」(39.0%)、「ごみの出し方などのマナーが守られていない。またはリサイクルへの関心が少ない」(35.7%)と続いている。問1で放置自転車対策業務の評価が一番高かったが、まちの課題・問題点としてはまだ解決していないことがうかがえる。

図 18 - 2 性別 / 性年代別 / 居住年数別 (上位 6 項目)

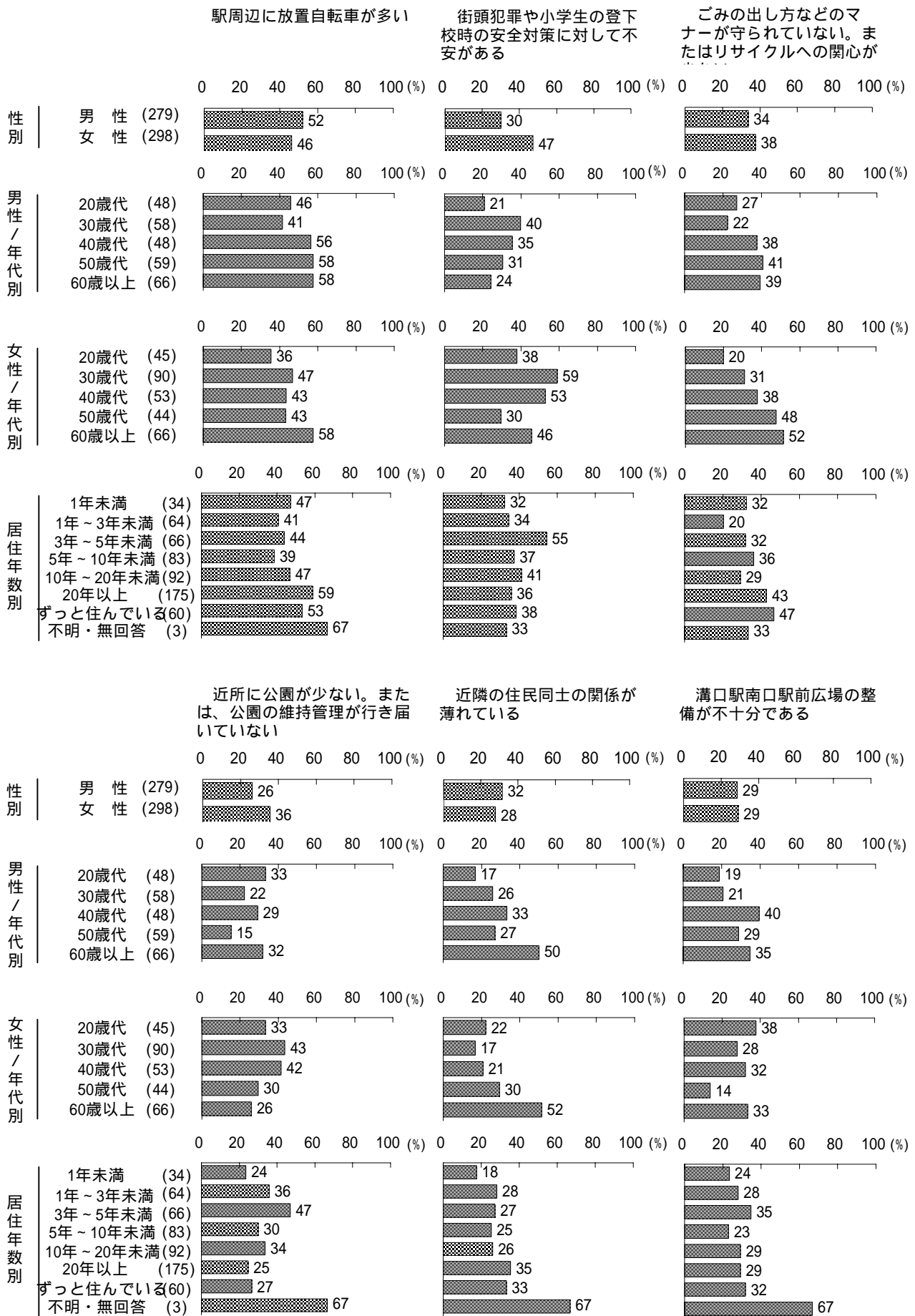
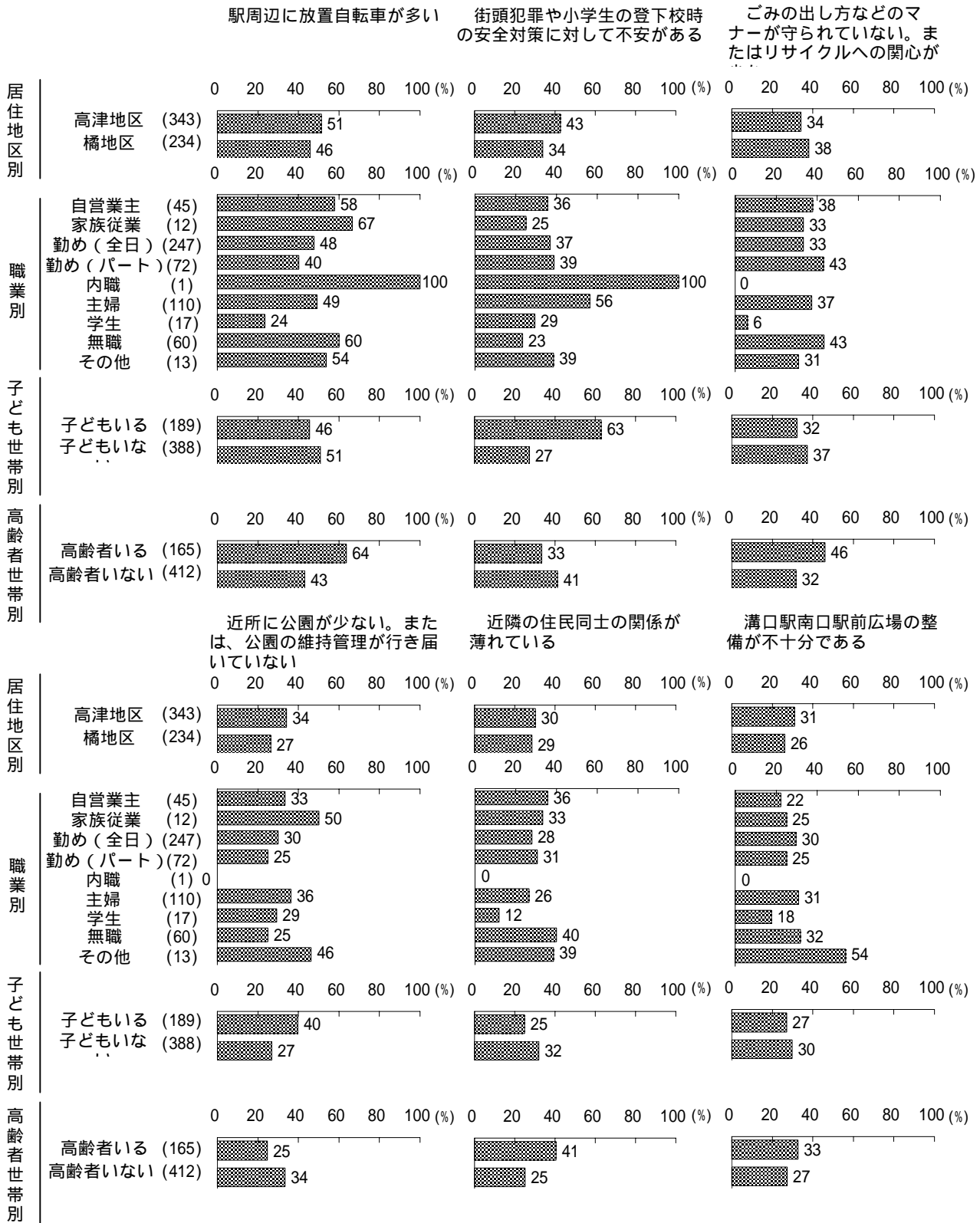


図 18 - 3 居住地区別 / 職業別 / 子ども・高齢者世帯別 (上位6項目)



「駅周辺に放置自転車が
多い」の性年代別をみると男女とも高年層になるほど高い。

「街頭犯罪や小学生の登下校時の安全対策に対して不安がある」では、性別で男性が30%、女性が47%と17%の差となっている。また、居住地区別でも高津地区43%に対し、橘地区では34%と9%の差になっている。子ども世帯別でも子どもがいる世帯では63%、子どもがいない世帯では27%と36%の差になっている。